臺灣日日新報
夕刊
日一十月五
一郎二郎一定価
右綱甘即
日1四丁谷市北澤所行發
社報新日日臺灣

通常議會には必ずや具體化
軍部が政府を鞭撻

【東京十一日發】一特別議會に於ける廣田内閣の國政一新に關する態度は我が輿論に對し、漸く滿足の影を投げ始めた。即ち組閣當初より國政一新を標榜する軍部方面では大いに政府と鞭撻し、之が實行に拍車をかけねばならぬを痛感してゐる、殊に永野陸相が大臣と會見する毎に政府一體となり國民の要望に副はんと努力してゐるが、肝腎の一新の具體案が出ないのを遺憾とし、政府は必ず本年新議會を機に國立ちすることを期待し、軍部としては廣田内閣をして一層奮起せしめ滿足を與へてゐるから、來るべき臨七十一通常議會には必ずや國政一新の具體案が出て來るものと期待してゐる

臨時議會召集に反對
今秋は諸種の事情から困難

【東京十一日發】廣田内閣の掲げる國政一新實現の爲には、先づ國民輿論の支持を得ることが必要であるとの見地から、一日も早く臨時議會を召集して、國民輿論の所在を明かにすべきであるとの聲が、與黨政友會内部に擡頭し、一部には政友會總裁たる床次逓相を通じて政府に對し臨時議會召集を要求しようとの動きさへ見えてゐたが、政友會の大勢は、今秋は諸種の事情から臨時議會召集は困難であるとの見解に傾き、床次逓相も亦この大勢に鑑み、政府に對し臨時議會召集を要求しない方針を決定するに至つた。從つて政友會内閣に對する國民輿論は、今議會が前内閣の引繼ぎで廣田内閣の政策が出來ないのだから今秋臨時議會を召集したいのだらうと云ふ樂觀説を生じ、組閣當時の聲明による國政一新の革新政策を國民大衆の前に提示すべきであるとしてゐるが、これに對し政府は、特別議會後は今議會で通過した追加豫算の實施に當る一方、昭和十二年度豫算編成にかからねばならぬし、又林内閣の財政整理方針の大綱が北海道で行はれる總裁上京の際に決定されるものも少なからず、更に議會の審議不可能の諸案件もあるので、結局、臨時議會召集は來年一月下旬の通常議會と同時に召集するを有利とし、今秋は諸種の事情から困難であるとの見解を有力に固めてゐるが、右の如く政府與黨の臨時議會召集に對する意嚮は、一部に於ては、廣田内閣の政策實現の爲には、今秋臨時議會を召集して國民輿論の所在を明かにすべきであるとの聲もあるが、大勢は、今秋は諸種の事情から困難であるとの見解に傾き、床次逓相も亦この大勢に鑑み、政府に對し臨時議會召集を要求しない方針を決定するに至つた。從つて政友會内閣に對する國民輿論は、今議會が前内閣の引繼ぎで廣田内閣の政策が出來ないのだから今秋臨時議會を召集したいのだらうと云ふ樂觀説を生じ、組閣當時の聲明による國政一新の革新政策を國民大衆の前に提示すべきであるとしてゐるが、これに對し政府は、特別議會後は今議會で通過した追加豫算の實施に當る一方、昭和十二年度豫算編成にかからねばならぬし、又林内閣の財政整理方針の大綱が北海道で行はれる總裁上京の際に決定されるものも少なからず、更に議會の審議不可能の諸案件もあるので、結局、

世界中の親友と
自由自在に交驩
私設の短波無電局が
アマチュア研究家に初許可

電波で握手

ラヂオの發達は實に驚くべきものがあるが、ラヂオ・アマチュアの間に於ても最近の發達は實に驚くべきものがあるが、殊に短波無電の發達は實に驚くべきものがあるが、殊に短波無電の發達は實に驚くべきものがあるが、殊に短波無電

紙衣祖師（103）

（九回）

吉川英治作
山村耕花畫

越路篇

机による雪（三）

繁盛屋の要なのである。

何事かと驚いて人々が出てみると、その御輿と共に托鉢に出た生信房が、何うしたのか、南手で鐵を抑へたまま、友の肩に抱へられてよろ〳〵と、静閑へ來て倒れた。

「あつ、何うされたッ、生信房どの」

人々が、駈け寄ると、

「しッ……騒かにしてくれ。……闇の男のお耳に入る。……静かに」

と、生信房は、血しほに濁る赤になつた手を振つて、又そこに俯つ伏してしまつた。

「水を——」

「生信房どの、水をおあがりなさい」

取り敢んで寄せる法の友だちの背へ、朝霧が、さく〳〵と光つて降りそそいでゐる。感ある者は、感そのまゝに、感なき者は、感を探して、彼の眼の血しほを拭つてゐる。

「ひどい夢だ。——一體これはどうなされたのです」

なに……人に話はありません。戻る途中、洛川の畷で聞んで石で打つたのだ」

生信房は、いぶかる人々へ、かれも消して、暗い部屋の中へ、老いた法ひこんだ顔口へ無理それてはいけない。

「御坐見でござりましたか」

「む……妻を讀んでゐるうちのうたゝねしさはなく、つい夜我、無我、身なく、吾々なく、思はず長い夜も忘れる」

「お眠ゐ疲らせぬので、ために、眠ゐも疲れでせう」

「いや、この眞如の月と、この雪明りとに向へば、百も人眼ひらくも地がする」

「夕のお粥をさしあげませうか」

「さう〳〵、忘れてゐた、わしはまだ夕餉いただいて居なかつたの。——生信房や、敬服はもう托鉢からもられたかの」

▲本欄は讀者の自由發表機關、從つて當社は不可▲行數は十五字六十行以内▲匿名可、住所氏名は明記

公開講座

西螺街後任街長への希望

愛街生

◇現行制の任期は二十日間にて、前任者の人物如何は將來街の發展に影響する事極めて重且つ大にして、吾々街民として關心せざるを得ない次第である。殊に重要で期待してゐるのは商業街の經營方針及び西螺後援會の活動である。

◇將來大西螺街の西螺帶を目標に向つて適當に行けねばならない。秋に際し、吾々街民は奮起一西螺發展の原動を熟知し民意を發揮すべきものと、信ずる。

◇現行制の任期は二十日間にて前任者の人物如何は將來街の發展に影響する事極めて重且つ大にして、吾々街民として關心せざるを得ない次第である。殊に重要で期待してゐるのは商業街の經營方針及び西螺後援會の活動である。

◇將來大西螺街の西螺帶を目標に向つて適當に行けねばならない。秋に際し、吾々街民は奮起一西螺發展の原動を熟知し民意を發揮すべきものと、信ずる。

今週の映畫

音樂映畫の高峰

別れの曲

十二日より圖書館上映

▲別れの曲」は大音樂家を主人公にしてゐる事に於いて「未完成交響樂」と比較して論じられてゐるが、共に人生に關正な影響の圖揚を與かしめる作品であつて、二者の長所は未完成交響樂にあつては音子が携へて夢多き音樂家の勤せ、その流れ人を惹き込む神秘さかして行くに反し「別れの曲」にあつては、若しは愛つゞき好ましさを持つそれが靜かに人の胸とかにしんみんと染渡つて行くこと

▲この映畫に憧かれるものは管弦シコペンの若き俊髄であらう。一つの生命の力の漲る時代の姿を古い時代に生を與へた如く再現されて夢動するのである

▲戀の若にとつては、おそらく未完成交響樂」以上に深く感ずるであらう、何れにしても、伊トビルシニスキ・ルマルシヤンの主演する此映畫の佳き收穫の一つである同時上映は、フオックス短指、ジヨー・キング監督ジヤネツト・ゲイナー・ライネホル・バリモア主演「心の鏡声」及び、パラマウント純作、ビング・クロスビー・WC・フールズ・ジヨージ・ベネツト主演「ミシシツピ」の二大作品である。（定價は「別れの曲」と同一番組）

臺日案內

料理屋

大衆向き宴會大勉強　魚文　電話貸金㈠四〇番　阿部五喜八

公會堂前通り　辨金本家　電話貸金㈠四〇五番

雜件

電話貸金㈠四〇番　商品券㈠四〇番　電話貸金㈠四〇番　商品券㈠四〇番　電話貸金㈠四〇番　商品券㈠四〇番

醫院

花柳病科　大栗病院　電話貸金㈠四〇番

寫眞

メイコーカメラ　新竹市東門町一丁目一番地　メイコーカメラ

カメラのシーズ　東郷製カメラ　好評の

カメラの春　東郷製カメラ　臺中市綠町參丁目一番地

樂器

山葉オルガン　臺北市榮町二丁目　日本樂器販賣社

時計眼鏡

メガネ專門　金光堂　臺北市榮町二丁目　電話貸金㈠四〇番

貴金屬

金銀細工は美工堂　臺北市榮町二丁目　電話貸金㈠四〇番

旅館

北投ホテル　新北投溫泉唯一の高級館　電話貸金㈠四〇番

茶代不要　眞家庭的　臺北市榮町二丁目　日本樂器販賣社

大衆向き　宴會大勉強　魚文　電話貸金㈠四〇番　阿部五喜八

公會堂前通り　辨金本家　電話貸金㈠四〇五番

雜件

電話貸金㈠四〇番　商品券㈠四〇番　電話貸金㈠四〇番　商品券㈠四〇番　電話貸金㈠四〇番　商品券㈠四〇番

醫院

花柳病科　大栗病院　電話貸金㈠四〇番

寫眞

メイコーカメラ　新竹市東門町一丁目一番地　メイコーカメラ

カメラのシーズ　東郷製カメラ　好評の

カメラの春　東郷製カメラ　臺中市綠町參丁目一番地

樂器

山葉オルガン　臺北市榮町二丁目　日本樂器販賣社

時計眼鏡

メガネ專門　金光堂　臺北市榮町二丁目　電話貸金㈠四〇番

貴金屬

金銀細工は美工堂　臺北市榮町二丁目　電話貸金㈠四〇番

旅館

北投ホテル　新北投溫泉唯一の高級館　電話貸金㈠四〇番

茶代不要　眞家庭的　臺北市榮町二丁目　日本樂器販賣社

料理屋

大衆向き宴會大勉強　魚文　電話貸金㈠四〇番　阿部五喜八

公會堂前通り　辨金本家　電話貸金㈠四〇五番

雜件

電話貸金㈠四〇番　商品券㈠四〇番　電話貸金㈠四〇番　商品券㈠四〇番　電話貸金㈠四〇番　商品券㈠四〇番

醫院

花柳病科　大栗病院　電話貸金㈠四〇番

寫眞

メイコーカメラ　新竹市東門町一丁目一番地　メイコーカメラ

カメラのシーズ　東郷製カメラ　好評の

カメラの春　東郷製カメラ　臺中市綠町參丁目一番地

樂器

山葉オルガン　臺北市榮町二丁目　日本樂器販賣社

時計眼鏡

メガネ專門　金光堂　臺北市榮町二丁目　電話貸金㈠四〇番

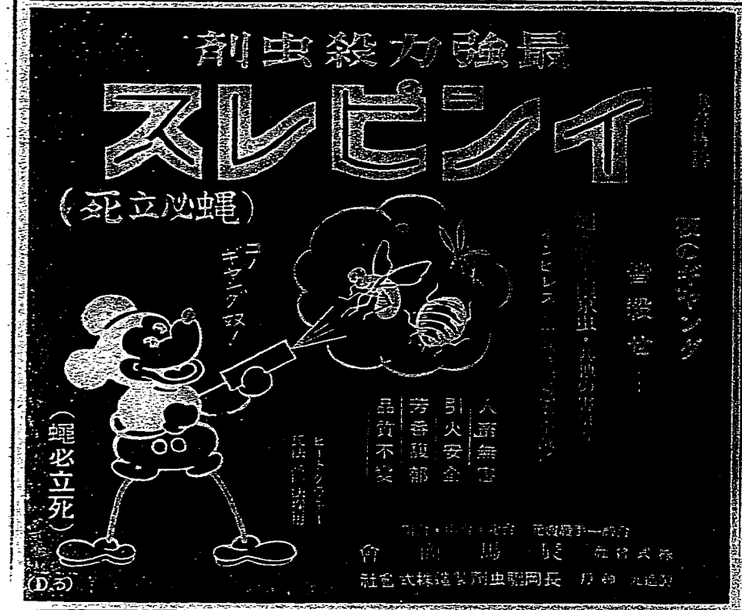
貴金屬

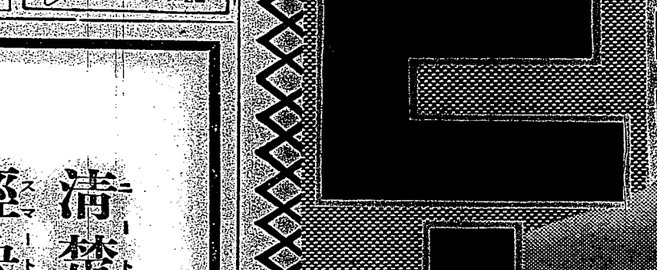
金銀細工は美工堂　臺北市榮町二丁目　電話貸金㈠四〇番

旅館

北投ホテル　新北投溫泉唯一の高級館　電話貸金㈠四〇番

茶代不要　眞家庭的　臺北市榮町二丁目　日本樂器販賣社





爲期航空南進安全
建設彭佳嶼觀測所
十日于現場舉開所式

爲帝國航空南進發達起見。並期萬全。彭佳嶼。建設觀測所。觀測臺灣氣象。去十日午前九時四十分。在該所舉開所式。有小濱內務局長。開所式。開崎基隆要塞司令官。桑原市尹。麻谷遞信部臨時課長。佐倉航空官。西村臺北觀測所長。橋本彭佳嶼觀測所長。其他多數臨席。西村技師述開會辭。小濱內務局長式辭。安田技師報告工事。中川總督代理（小濱局長代讀）堀田交通局總長（原邊務課長代讀）今川臺北州知事（眞藤臺北州屬代讀）桑原市尹等。前後祝辭。西村技師披露祝電。乃閉式。聲開祝宴。小濱局長發聲。三唱兩陛下萬歲。開崎基隆要塞司令官發聲。三唱彭佳嶼觀測所萬歲而散。該嶼

（原稿配給）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

臺灣日日新報

日本唯一の大陸専門紙
臺北市北門町二丁目一番地
電話 臺北 貳拾五圓 貳行一 編輯局 貳行一 印刷局 貳行一 広告部 貳行一 販賣部

二・二六の十日

陸軍國境戰の眞相記

新京特派 福代惟男

最近露國より苦心入手せる秘密大画報！未だ我國何處にも發表されざるこの寫眞くべき赤露の實力を見よ！大陣容、明らかとなつた！

三月三十、三十一兩日に亘つて擧國深き滿蒙の野に、機械戰と肉彈とを以て、赤露軍の心膽を寒からしめた溢谷部隊の實戰、鬼中尉の戰死、軍司令官の光景等如實に正確なる報道だ！

藤田嗣治畫伯の美人行脚

奉公の道を誤る勿れ

内閣總理大臣 廣田弘毅

▼非常時陸軍の將星 これからの日本で立つ人は？

▼新三大臣の横顔 （小川藏相、有田外務、寺内陸相の新三大臣の顔ぶれ）

▼時事早わかり問答 （軍部、財界の現狀をわかり易く說いた）

己れを捨てて働け

佐藤義亮

他では絶對に手に入らぬ大日報だ

臺北市の商工祭に就いて

奢侈排撃と善き照明が眼目

臺北市の國産奨勵者は、近年稀有の盛況裡に行はるる筈の第六回商工祭に向ふ事となり、市内各商店は之が準備に忙殺されて居るが、今回の商工祭は、單に從來の如く單なる物品の陳列販賣に終らしめず、更に一歩を進めて「國産奨勵者に優良なる季節的物資を供給し併せて國産奨勵を中心とした期間に大賣出しを爲して全市の繁榮と發展とに資せんとする」ところに重點を置いて居るやうである。斯る企ては總元内地都市に於ても屢〻之を試みられて居るが、何れも一時的の景氣を煽るところに終始して、徒に一般の購買慾を唆り立つるに過ぎず、行き過ぎの結果、取つても浸着の興味を感せしめて却つて財布の紐を解かしめられやうになつて居る。今日は單に店を構へて居れば人が集つて來てくれるとばかり思つたら大間違ひで、商店街の人々が社會相手の營業を展開して積極的に働きに出かけなければ、今日の繁榮は望まれないと云つても過言ではないであつた。

二

一體臺北市は、内地の都會に比べて、餘りに照明が暗過ぎる。之が爲めに、折角の商品も、その美しさを十分に發揮することが出來ないし、又買物客も、店内の隅々まで明るく照らされて居ないと、何となく氣味が惡くて、ゆつくりと買物をする氣になれないものである。赤煉瓦建の會場を目あてに、街頭の電燈を煌々と點けたとて、それは無いが、商店街は、せめて店に入つて買物をするにも、もの柔いやうな明るさがなければならないのである。商業を街に持たせ生きて行くといふ點に於ても、照明に關する知識を深くし、之を實行することが、シミ〳〵と感じさせられるのである。

三

夏の季節を迎へて盛大なる商工祭を擧行することは、誠に時期を得た事であつて、當に國産奨勵者は勿論、一般市民が一丸となつて、之が成功に向つて、全力を盡すことは、申すまでもないが、更に一歩を進めて、内地人と本島人とが、互に手を携へて、同祭を擧行することに依つて、内地人と本島人との融和を圖ることにも、大いに意義があらう。今回臺北市で開催される商工祭を單なる物品販賣に終らしめず、更に一歩を進め

議會に提出された 米穀關係二法案

その成行に至大の注目集まる

法案の内容……(一)

米管法の 目的に依る 消費者側の聲が大分強調されて來た上、生產者側から言へば、この法律の眼目が米穀を統制するものは米を持つてゐる小數の地主だけで、それ等一般生產者は何作のために統制されるのか分らぬ、寧ろ米を賣つて食う者が多くなつて來た關係からして生產者とは云へ實際の生產費を比較して見ると四百五十萬石の餘少を來してゐるために米管法の目的は何處までもやかましく言はないで政府提出の法案を通さうと云ふ氣配になつたわけである

×　×　×

次に九日政府が議會に上程せる米穀關係二法案は左の如くである

右二案は 前議會の會期を二回に亘つて延長せしめた關係であつて衆議院は解散前に其の審議を終了して貴族院に送付したが貴族院としては何んとも言のつけようがなく、政府としても流產を見越しながら議會の面目上一應の審議を盡さしめた關係上、第二讀會に於て修正を加へ、第三讀會に於ては原案通り可決して貴族院に送付したが貴族院としては何んとも言のつけようがなく、政府としても流產を見越しながら議會の面目上一應の審議を盡さしめた關係上、第二讀會に於て修正を加へ、第三讀會に於ては原案通り可決して貴族院に送付したが貴族院としては

×　×　×

米穀自治管理法の目的は今更說明するまでもなく、內地、朝鮮及び臺灣を通ずる

過剩米穀 を統制する爲に內地、朝鮮及臺灣で米穀の自治管理を行はんとするものである、この法律は生產者と消費者の立場を相當考慮されて出來上つてゐるが實のところは利益の相反してゐる雙方の言分を取れてゐる爲にどちらの利益のためともつかぬ生溫いものになつてゐる、それでも米穀關係は直接生產者の作況に關するものであるとして全國に擴がる反響を呼び起して朝野の識者から種々の批判が加へられてゐる

中途半端 なほひがあるが總督府當局に於ては本法の實施に當つては出來得る限り生產者と消費者の立場から、それぐ調和を圖つてゆきたいとの意向であるから、民政黨の立場からそれ等の點そのものに對しては深く觸れないことにしてゐる

米穀自治管理法

第一條　本法は內地、朝鮮及臺灣を通ずる過剩米穀を統制する爲內地、朝鮮及臺灣に於て米穀の自治管理をなすことを目的とす

第二條　米穀生產者、土地に付權利を有する者又は小作料として米穀を小作に提供する者及び收穫の全部又は一部を以て賃金を支拂ふ者は米穀統制組合に加入することを得

第三條　米穀統制組合は法人とし其の區域は一市町村、數市町村又は一府縣の區域に依ることを得

第四條　米穀統制組合の組織は內地に在りては市町村、朝鮮に在りては府島、臺灣に在りては郡又は郡市の區域に依ることを得

第五條　米穀統制組合の地區は內地に在りては市町村、朝鮮に在りては府島、臺灣に在りては郡又は郡市の區域に依ることを得

第六條　米穀統制組合の組合員は米穀統制組合の地區內に住所を有する者又は其の地區內に耕作の業務所を有する者とす

第七條　米穀統制組合は定款の定むる所に依り其の地區內の組合員たる資格を有する者の三分の二以上の同意を得て創立總會の決議を經て行政官廳の認可を受くべし

第八條　米穀統制組合の定款には左の事項を記載すべし

一　目的

二　名稱

三　地區

四　事務所の所在地

五　組合員たる資格に關する事項

六　組合員の加入及脫退に關する事項

七　組合員の權利義務に關する事項

八　組合員の除名に關する事項

九　組合員の出資口數の最高及最低並に一口の金額

十　組合員の出資口數の增加に關する事項

十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

二十　組合員の出資口數の減少に關する事項

二十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

二十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

二十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

二十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

二十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

二十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

二十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

二十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

二十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

三十　組合員の出資口數の減少に關する事項

三十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

三十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

三十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

三十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

三十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

三十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

三十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

三十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

三十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

四十　組合員の出資口數の減少に關する事項

四十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

四十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

四十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

四十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

四十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

四十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

四十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

四十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

四十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

五十　組合員の出資口數の減少に關する事項

五十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

五十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

五十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

五十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

五十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

五十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

五十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

五十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

五十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

六十　組合員の出資口數の減少に關する事項

六十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

六十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

六十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

六十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

六十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

六十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

六十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

六十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

六十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

七十　組合員の出資口數の減少に關する事項

七十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

七十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

七十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

七十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

七十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

七十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

七十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

七十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

七十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

八十　組合員の出資口數の減少に關する事項

八十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

八十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

八十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

八十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

八十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

八十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

八十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

八十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

八十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

九十　組合員の出資口數の減少に關する事項

九十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

九十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

九十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

九十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

九十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

九十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

九十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

九十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

九十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

百　組合員の出資口數の減少に關する事項

百一　組合員の出資口數の減少に關する事項

百二　組合員の出資口數の減少に關する事項

百三　組合員の出資口數の減少に關する事項

百四　組合員の出資口數の減少に關する事項

百五　組合員の出資口數の減少に關する事項

百六　組合員の出資口數の減少に關する事項

百七　組合員の出資口數の減少に關する事項

百八　組合員の出資口數の減少に關する事項

百九　組合員の出資口數の減少に關する事項

百十　組合員の出資口數の減少に關する事項

百十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

百十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

百十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

百十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

百十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

百十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

百十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

百十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

百十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

百二十　組合員の出資口數の減少に關する事項

百二十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

百二十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

百二十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

百二十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

百二十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

百二十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

百二十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

百二十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

百二十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

百三十　組合員の出資口數の減少に關する事項

百三十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

百三十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

百三十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

百三十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

百三十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

百三十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

百三十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

百三十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

百三十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

百四十　組合員の出資口數の減少に關する事項

百四十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

百四十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

百四十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

百四十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

百四十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

百四十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

百四十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

百四十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

百四十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

百五十　組合員の出資口數の減少に關する事項

百五十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

百五十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

百五十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

百五十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

百五十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

百五十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

百五十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

百五十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

百五十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

百六十　組合員の出資口數の減少に關する事項

百六十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

百六十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

百六十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

百六十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

百六十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

百六十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

百六十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

百六十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

百六十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

百七十　組合員の出資口數の減少に關する事項

百七十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

百七十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

百七十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

百七十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

百七十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

百七十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

百七十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

百七十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

百七十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

百八十　組合員の出資口數の減少に關する事項

百八十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

百八十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

百八十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

百八十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

百八十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

百八十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

百八十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

百八十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

百八十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

百九十　組合員の出資口數の減少に關する事項

百九十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

百九十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

百九十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

百九十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

百九十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

百九十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

百九十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

百九十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

百九十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百一　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百二　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百三　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百四　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百五　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百六　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百七　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百八　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百九　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百十　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百二十　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百二十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百二十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百二十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百二十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百二十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百二十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百二十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百二十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百二十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百三十　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百三十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百三十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百三十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百三十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百三十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百三十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百三十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百三十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百三十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百四十　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百四十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百四十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百四十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百四十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百四十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百四十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百四十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百四十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百四十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百五十　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百五十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百五十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百五十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百五十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百五十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百五十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百五十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百五十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百五十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百六十　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百六十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百六十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百六十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百六十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百六十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百六十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百六十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百六十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百六十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百七十　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百七十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百七十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百七十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百七十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百七十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百七十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百七十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百七十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百七十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百八十　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百八十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百八十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百八十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百八十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百八十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百八十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百八十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百八十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百八十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百九十　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百九十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百九十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百九十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百九十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百九十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百九十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百九十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百九十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

二百九十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百一　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百二　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百三　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百四　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百五　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百六　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百七　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百八　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百九　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百十　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百二十　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百二十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百二十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百二十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百二十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百二十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百二十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百二十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百二十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百二十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百三十　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百三十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百三十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百三十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百三十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百三十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百三十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百三十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百三十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百三十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百四十　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百四十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百四十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百四十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百四十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百四十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百四十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百四十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百四十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百四十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百五十　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百五十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百五十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百五十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百五十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百五十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百五十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百五十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百五十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百五十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百六十　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百六十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百六十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百六十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百六十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百六十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百六十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百六十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百六十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百六十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百七十　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百七十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百七十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百七十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百七十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百七十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百七十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百七十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百七十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百七十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百八十　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百八十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百八十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百八十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百八十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百八十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百八十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百八十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百八十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百八十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百九十　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百九十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百九十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百九十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百九十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百九十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百九十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百九十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百九十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

三百九十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百一　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百二　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百三　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百四　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百五　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百六　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百七　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百八　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百九　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百十　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百二十　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百二十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百二十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百二十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百二十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百二十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百二十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百二十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百二十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百二十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百三十　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百三十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百三十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百三十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百三十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百三十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百三十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百三十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百三十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百三十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百四十　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百四十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百四十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百四十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百四十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百四十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百四十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百四十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百四十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百四十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百五十　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百五十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百五十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百五十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百五十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百五十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百五十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百五十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百五十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百五十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百六十　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百六十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百六十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百六十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百六十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百六十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百六十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百六十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百六十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百六十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百七十　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百七十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百七十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百七十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百七十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百七十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百七十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百七十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百七十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百七十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百八十　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百八十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百八十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百八十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百八十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百八十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百八十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百八十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百八十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百八十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百九十　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百九十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百九十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百九十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百九十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百九十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百九十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百九十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百九十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

四百九十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百一　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百二　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百三　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百四　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百五　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百六　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百七　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百八　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百九　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百十　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百二十　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百二十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百二十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百二十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百二十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百二十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百二十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百二十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百二十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百二十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百三十　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百三十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百三十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百三十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百三十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百三十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百三十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百三十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百三十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百三十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百四十　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百四十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百四十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百四十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百四十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百四十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百四十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百四十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百四十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百四十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百五十　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百五十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百五十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百五十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百五十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百五十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百五十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百五十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百五十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百五十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百六十　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百六十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百六十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百六十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百六十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百六十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百六十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百六十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百六十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百六十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百七十　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百七十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百七十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百七十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百七十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百七十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百七十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百七十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百七十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百七十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百八十　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百八十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百八十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百八十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百八十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百八十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百八十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百八十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百八十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百八十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百九十　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百九十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百九十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百九十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百九十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百九十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百九十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百九十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百九十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

五百九十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百一　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百二　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百三　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百四　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百五　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百六　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百七　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百八　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百九　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百十　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百二十　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百二十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百二十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百二十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百二十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百二十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百二十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百二十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百二十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百二十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百三十　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百三十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百三十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百三十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百三十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百三十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百三十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百三十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百三十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百三十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百四十　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百四十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百四十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百四十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百四十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百四十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百四十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百四十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百四十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百四十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百五十　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百五十一　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百五十二　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百五十三　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百五十四　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百五十五　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百五十六　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百五十七　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百五十八　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百五十九　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百六十　組合員の出資口數の減少に關する事項

六百六十一　組合員の

華麗島への畫信（上）

東都美術の景觀

立石鐵臣

東京に着いた時、上野には櫻が滿開を初め、御苑の櫻は殊に美しい若葉に變りかけてゐた。櫻が滿開だとてゐた。櫻が滿の葉花がもつゝくしく、しく、私は久し振りで春にめぐり逢つた様な愉こさで、上野にも街にも眼かに眺さした春の表情を歓喜馬食の感に見歩いた。

今年は一體に大きく「櫻花」と書いてある樂で米粉を塗、なつかしく感覺を思ひ出すまに、春の東都美術の景觀を書き綴らうと筆をとる。

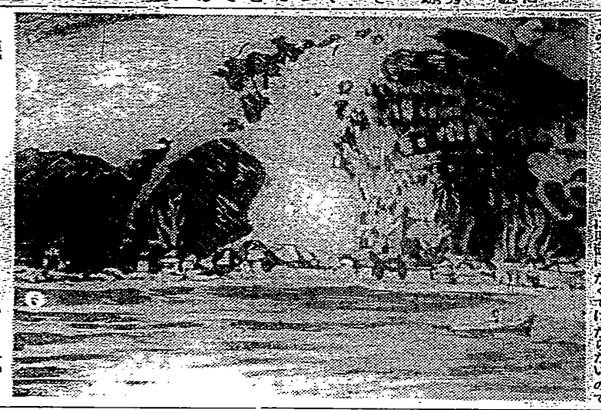
國畫會で

春陽會二部氏の今年の出品にはまた新しい感動に觸が高鳴つた。二十五號の「紅の襦」は一點のうち最も傑作で、色彩が深い。見てゐると無限から限々と湧きあがる黄金色の空に水と山の青い夕方の景色、高雅情緒である。「舞扇」はほゝえましい感覺に溢れてゐる。中川一政氏は、境郁のやうな美しさは見出すものの、その畫面のアトモスフエアだけでも今日の日本に出現がない。フランスの青山が日本の青山となつて年々國展にその作品をあらはす事になつたのは嬉しい。數年かゝつてゐる。——と云つてゐる。

一寸見に派手な感覺の或る別屋畫一部氏も加へて「國の寶員になつた。作品「晨」は最近の外遊の所産で、ナポリ、ヴニスヒヴエネツイアの風趣は、氏の秀れた畫面のうちに明朗の様に洞明な美しさを示してゐる。

以上三氏の作品は今年の國展で最も注目すべきもの様に思ふ。他の諸氏に就いては個々に書く事を略す。關展の輪は大體につゝましい。數量かゝり整つてゐる。それは是所でもあり關點となつてゐる。然し或る人達にその關點、關眼を向け様としてゐる。關點から生れた輪にも新しい數向が見える。新しい輪へ進む起きが、然し、それは若し氣で過ぎない。

東中國畫の古賀虎雪氏が、數人一千二百五十一點、入選百二十四點の相當の數量を通つて選擇から漏れた「花」で、點のある様式の自立



殘月

梅原龍三郎

混沌動搖時代を描く

「暗黒と黎明」

ア・トルストイの新作

アレキセイ・トルストイは彼の歴史小説をかき來つて、彼らのドラマをロシア革命のものゝドラマとして一般に關心と全體としての興味を集めてゐる。

とにかくトルストイは私の目指してゐる、この「暗黒と黎明」と私の關係の物語上のものゝ目と私の關係の物語上のものゝ目

中產階級の地方の貴族の娘たちカーティアとダーシャ・パラヴイチェワの二人でゐた。カーティアは既に彼女が愛してゐない男に嫁してゐた。ダーシャはまだ十代で法律を勉強してゐる。カーティアは彼女の愛人に發展な時人を持つてゐる。ダーシャはその私通を止めさせようと積極的に詩人と知り合ふやうになる。かやつてゐるうちに彼女自身がペサノフにはまり込む。でも彼女はペサノフと全く反對の若者テレジンに惹かれる。既に關係が破綻した時彼女とテレジンは愛して「緒に暮してゐる。ところがカーティアの結婚は全く破局に陥つて了ふ。それにつづくものは革命のシーンである。

それからこの小説の大部をなしてゐるものは二人の姉妹と彼らの夫カーティアは積極してゐるの運動である。ロシア革命の生命の源泉ともいふべきロシア農民を敵めた文學運動（定價十錢東京市中芝區天神町十九番地）

▲日本婦人（五月號）明治天皇御製千葉胤明、大日本婦人會會歌野口雨情、中村大佐、德富猪一郎、乃木將軍の事、中村大佐、德富猪一郎、乃木將軍の事、（中村德五郎）最新防空講話（木村陸軍少將）（大竹文輔）等の中行最新時事解説少女讀物等盛澤山で、表紙は表紙の共著者の長男武武義雄君の寫眞、裏面は表紙の寫眞、口繪は田一郎氏の寫眞、全部非常時色に滿ちた内容である。（定價八錢東京市芝區天神町二ノ八大日本婦人編輯社）

▲世代（創刊號）（片山敏彦）哲學（の理解）（坂田德男）文學的脫出の問題（原田義人）バストラル追求（大野正夫）どうしてもなかつた（原田義人）ジョチエ・デュアメル（ジャン・プレオオ）大野正夫・原田義人等の論文（定價十錢東京市中芝區天神町十九番地）

▲日本婦人（五月號）明治天皇御製千葉胤明、大日本婦人會會歌野口雨情、中村大佐、德富猪一郎、乃木將軍の事、（中村德五郎）最新防空講話（木村陸軍少將）（大竹文輔）等の中行最新時事解説少女讀物等盛澤山で、表紙は表紙の共著者の長男武武義雄君の寫眞、裏面は表紙の寫眞、口繪は田一郎氏の寫眞、全部非常時色に滿ちた内容である。（定價八錢東京市芝區天神町二ノ八大日本婦人編輯社）

▲月刊ロシヤ（五月號）特輯東と西のソ聯邦政局（木村健）・長谷川テル（ソ聯國家計畫經濟（ジェラウク）征服され行く北氷洋（黒田乙吉）五月のロシヤ（米川正夫他二氏）關田內閣に望まする對ソ政策、スターリン一問一答錄（全聯邦共產黨の指及びシベリヤ放浪記（宮田一郎）その他ロシヤに關する最新の記事（定價二十五錢東京市芝區天神町二ノ八大日本婦人編輯社）

▲日本婦人（五月號）明治天皇御製千葉胤明、大日本婦人會會歌野口雨情、中村大佐、德富猪一郎、乃木將軍の事、（中村德五郎）最新防空講話（木村陸軍少將）（大竹文輔）等の中行最新時事解説少女讀物等盛澤山で、表紙は表紙の共著者の長男武武義雄君の寫眞、裏面は表紙の寫眞、口繪は田一郎氏の寫眞、全部非常時色に滿ちた内容である。（定價八錢東京市芝區天神町二ノ八大日本婦人編輯社）

雜誌紹介

梅毒と膿毒

梅毒性吹出物に

ベルツ丸

王博ツルベ氏像 SUZUKI NIPPON-SEIYAKUSHA

發賣元　鈴木日本製藥社

東京市日本橋區濱町三丁目四十番地

發賣元　鈴木日本製藥社

社主　鈴木清二

振替東京四三番・電話茅場八十番・九十番

效能　梅毒、膿毒、腫物、橫痃、しつ疾、ひぜ、せきする、瘡、腫物、皮膚病、皮膚瘙痒、ヘルペス、發熱の皮膚病、瘙痒性疾患、出血性、瘙痒性皮膚病、皮膚瘙痒、瘙痒性皮膚病、瘙痒性皮膚病、瘙痒性皮膚病

口笛吹いて

ニューヨーク摩天樓の頭上を飛ぶ人々。窗から一本の腕木に命を託しながら暢かに口笛を吹いてゐる……

學校教育と視力

（二）照度の弱い所で勉強すると近視や亂視になり易い

日本近視學會
理事長　葉山英一

視力と採光問題

學校教育問題で、殊に最も取上げられる最近の問題は近視問題である。

昔々人間の眼には、明るい場所で活動する細胞と、暗い場所で働く細胞とがある、即ち細かい物を見分けたり、色を識別したりする細胞を持ち、後者は視力が弱く細かい物は絶對に見分けられず、色の識別は全然不可能である。昔が晝間働き、夜間休息するに都合よく出來てゐるのは、すべて晝の細胞の活動に依るものである。

×

故に昔々から、勉强に明暗に、そして氣持良く感ずるには、即ち眼の細胞が充分活動し得る適當な明るさが必要なのである。

この適當な明るさ、といふのは幾どの程度の明るさであるか？東京電燈株式會社で調査した結果は、讀書するのに一番樂で疲れ易い照度は、一八〇ルクス、一八〇ルクス、二〇〇ルクス、二一〇ルクス、二一八ルクス、二四〇ルクス、二五〇ルクス、二七〇ルクス、二八〇ルクス、三〇〇ルクス、三一八ルクス、三五〇ルクス、三六〇ルクス、三七〇ルクス、三八〇ルクス、四〇〇ルクス、四二〇ルクス、四五〇ルクス、四八〇ルクス、五〇〇ルクス、五四〇ルクス、五七〇ルクス、六〇〇ルクス、六三〇ルクス、六六〇ルクス、七〇〇ルクス、七五〇ルクス、八〇〇ルクス、八五〇ルクス、九〇〇ルクス、九五〇ルクス、一千ルクス、一千一〇〇ルクス、一千二〇〇ルクス、一千三〇〇ルクス、一千四〇〇ルクス、一千五〇〇ルクス、一千六〇〇ルクス、一千七〇〇ルクス、一千八〇〇ルクス、一千九〇〇ルクス、二千ルクス、二千一〇〇ルクス、二千二〇〇ルクス、二千三〇〇ルクス、二千四〇〇ルクス、二千五〇〇ルクス、二千六〇〇ルクス、二千七〇〇ルクス、二千八〇〇ルクス、二千九〇〇ルクス、三千ルクス、三千一〇〇ルクス、三千二〇〇ルクス、三千三〇〇ルクス、三千四〇〇ルクス、三千五〇〇ルクス、三千六〇〇ルクス、三千七〇〇ルクス、三千八〇〇ルクス、三千九〇〇ルクス、四千ルクス、四千一〇〇ルクス、四千二〇〇ルクス、四千三〇〇ルクス、四千四〇〇ルクス、四千五〇〇ルクス、四千六〇〇ルクス、四千七〇〇ルクス、四千八〇〇ルクス、四千九〇〇ルクス、五千ルクス、五千一〇〇ルクス、五千二〇〇ルクス、五千三〇〇ルクス、五千四〇〇ルクス、五千五〇〇ルクス、五千六〇〇ルクス、五千七〇〇ルクス、五千八〇〇ルクス、五千九〇〇ルクス、六千ルクス、六千一〇〇ルクス、六千二〇〇ルクス、六千三〇〇ルクス、六千四〇〇ルクス、六千五〇〇ルクス、六千六〇〇ルクス、六千七〇〇ルクス、六千八〇〇ルクス、六千九〇〇ルクス、七千ルクス、七千一〇〇ルクス、七千二〇〇ルクス、七千三〇〇ルクス、七千四〇〇ルクス、七千五〇〇ルクス、七千六〇〇ルクス、七千七〇〇ルクス、七千八〇〇ルクス、七千九〇〇ルクス、八千ルクス、八千一〇〇ルクス、八千二〇〇ルクス、八千三〇〇ルクス、八千四〇〇ルクス、八千五〇〇ルクス、八千六〇〇ルクス、八千七〇〇ルクス、八千八〇〇ルクス、八千九〇〇ルクス、九千ルクス、九千一〇〇ルクス、九千二〇〇ルクス、九千三〇〇ルクス、九千四〇〇ルクス、九千五〇〇ルクス、九千六〇〇ルクス、九千七〇〇ルクス、九千八〇〇ルクス、九千九〇〇ルクス、一万ルクス、一万一〇〇ルクス、一万二〇〇ルクス、一万三〇〇ルクス、一万四〇〇ルクス、一万五〇〇ルクス、一万六〇〇ルクス、一万七〇〇ルクス、一万八〇〇ルクス、一万九〇〇ルクス、二万ルクス、二万一〇〇ルクス、二万二〇〇ルクス、二万三〇〇ルクス、二万四〇〇ルクス、二万五〇〇ルクス、二万六〇〇ルクス、二万七〇〇ルクス、二万八〇〇ルクス、二万九〇〇ルクス、三万ルクス、三万一〇〇ルクス、三万二〇〇ルクス、三万三〇〇ルクス、三万四〇〇ルクス、三万五〇〇ルクス、三万六〇〇ルクス、三万七〇〇ルクス、三万八〇〇ルクス、三万九〇〇ルクス、四万ルクス、四万一〇〇ルクス、四万二〇〇ルクス、四万三〇〇ルクス、四万四〇〇ルクス、四万五〇〇ルクス、四万六〇〇ルクス、四万七〇〇ルクス、四万八〇〇ルクス、四万九〇〇ルクス、五万ルクス、五万一〇〇ルクス、五万二〇〇ルクス、五万三〇〇ルクス、五万四〇〇ルクス、五万五〇〇ルクス、五万六〇〇ルクス、五万七〇〇ルクス、五万八〇〇ルクス、五万九〇〇ルクス、六万ルクス、六万一〇〇ルクス、六万二〇〇ルクス、六万三〇〇ルクス、六万四〇〇ルクス、六万五〇〇ルクス、六万六〇〇ルクス、六万七〇〇ルクス、六万八〇〇ルクス、六万九〇〇ルクス、七万ルクス、七万一〇〇ルクス、七万二〇〇ルクス、七万三〇〇ルクス、七万四〇〇ルクス、七万五〇〇ルクス、七万六〇〇ルクス、七万七〇〇ルクス、七万八〇〇ルクス、七万九〇〇ルクス、八万ルクス、八万一〇〇ルクス、八万二〇〇ルクス、八万三〇〇ルクス、八万四〇〇ルクス、八万五〇〇ルクス、八万六〇〇ルクス、八万七〇〇ルクス、八万八〇〇ルクス、八万九〇〇ルクス、九万ルクス、九万一〇〇ルクス、九万二〇〇ルクス、九万三〇〇ルクス、九万四〇〇ルクス、九万五〇〇ルクス、九万六〇〇ルクス、九万七〇〇ルクス、九万八〇〇ルクス、九万九〇〇ルクス、十万ルクス、十万一〇〇ルクス、十万二〇〇ルクス、十万三〇〇ルクス、十万四〇〇ルクス、十万五〇〇ルクス、十万六〇〇ルクス、十万七〇〇ルクス、十万八〇〇ルクス、十万九〇〇ルクス、十一万ルクス、十一万一〇〇ルクス、十一万二〇〇ルクス、十一万三〇〇ルクス、十一万四〇〇ルクス、十一万五〇〇ルクス、十一万六〇〇ルクス、十一万七〇〇ルクス、十一万八〇〇ルクス、十一万九〇〇ルクス、十二万ルクス、十二万一〇〇ルクス、十二万二〇〇ルクス、十二万三〇〇ルクス、十二万四〇〇ルクス、十二万五〇〇ルクス、十二万六〇〇ルクス、十二万七〇〇ルクス、十二万八〇〇ルクス、十二万九〇〇ルクス、十三万ルクス、十三万一〇〇ルクス、十三万二〇〇ルクス、十三万三〇〇ルクス、十三万四〇〇ルクス、十三万五〇〇ルクス、十三万六〇〇ルクス、十三万七〇〇ルクス、十三万八〇〇ルクス、十三万九〇〇ルクス、十四万ルクス、十四万一〇〇ルクス、十四万二〇〇ルクス、十四万三〇〇ルクス、十四万四〇〇ルクス、十四万五〇〇ルクス、十四万六〇〇ルクス、十四万七〇〇ルクス、十四万八〇〇ルクス、十四万九〇〇ルクス、十五万ルクス、十五万一〇〇ルクス、十五万二〇〇ルクス、十五万三〇〇ルクス、十五万四〇〇ルクス、十五万五〇〇ルクス、十五万六〇〇ルクス、十五万七〇〇ルクス、十五万八〇〇ルクス、十五万九〇〇ルクス、十六万ルクス、十六万一〇〇ルクス、十六万二〇〇ルクス、十六万三〇〇ルクス、十六万四〇〇ルクス、十六万五〇〇ルクス、十六万六〇〇ルクス、十六万七〇〇ルクス、十六万八〇〇ルクス、十六万九〇〇ルクス、十七万ルクス、十七万一〇〇ルクス、十七万二〇〇ルクス、十七万三〇〇ルクス、十七万四〇〇ルクス、十七万五〇〇ルクス、十七万六〇〇ルクス、十七万七〇〇ルクス、十七万八〇〇ルクス、十七万九〇〇ルクス、十八万ルクス、十八万一〇〇ルクス、十八万二〇〇ルクス、十八万三〇〇ルクス、十八万四〇〇ルクス、十八万五〇〇ルクス、十八万六〇〇ルクス、十八万七〇〇ルクス、十八万八〇〇ルクス、十八万九〇〇ルクス、十九万ルクス、十九万一〇〇ルクス、十九万二〇〇ルクス、十九万三〇〇ルクス、十九万四〇〇ルクス、十九万五〇〇ルクス、十九万六〇〇ルクス、十九万七〇〇ルクス、十九万八〇〇ルクス、十九万九〇〇ルクス、二十万ルクス、二十万一〇〇ルクス、二十万二〇〇ルクス、二十万三〇〇ルクス、二十万四〇〇ルクス、二十万五〇〇ルクス、二十万六〇〇ルクス、二十万七〇〇ルクス、二十万八〇〇ルクス、二十万九〇〇ルクス、二十一万ルクス、二十一万一〇〇ルクス、二十一万二〇〇ルクス、二十一万三〇〇ルクス、二十一万四〇〇ルクス、二十一万五〇〇ルクス、二十一万六〇〇ルクス、二十一万七〇〇ルクス、二十一万八〇〇ルクス、二十一万九〇〇ルクス、二十二万ルクス、二十二万一〇〇ルクス、二十二万二〇〇ルクス、二十二万三〇〇ルクス、二十二万四〇〇ルクス、二十二万五〇〇ルクス、二十二万六〇〇ルクス、二十二万七〇〇ルクス、二十二万八〇〇ルクス、二十二万九〇〇ルクス、二十三万ルクス、二十三万一〇〇ルクス、二十三万二〇〇ルクス、二十三万三〇〇ルクス、二十三万四〇〇ルクス、二十三万五〇〇ルクス、二十三万六〇〇ルクス、二十三万七〇〇ルクス、二十三万八〇〇ルクス、二十三万九〇〇ルクス、二十四万ルクス、二十四万一〇〇ルクス、二十四万二〇〇ルクス、二十四万三〇〇ルクス、二十四万四〇〇ルクス、二十四万五〇〇ルクス、二十四万六〇〇ルクス、二十四万七〇〇ルクス、二十四万八〇〇ルクス、二十四万九〇〇ルクス、二十五万ルクス、二十五万一〇〇ルクス、二十五万二〇〇ルクス、二十五万三〇〇ルクス、二十五万四〇〇ルクス、二十五万五〇〇ルクス、二十五万六〇〇ルクス、二十五万七〇〇ルクス、二十五万八〇〇ルクス、二十五万九〇〇ルクス、二十六万ルクス、二十六万一〇〇ルクス、二十六万二〇〇ルクス、二十六万三〇〇ルクス、二十六万四〇〇ルクス、二十六万五〇〇ルクス、二十六万六〇〇ルクス、二十六万七〇〇ルクス、二十六万八〇〇ルクス、二十六万九〇〇ルクス、二十七万ルクス、二十七万一〇〇ルクス、二十七万二〇〇ルクス、二十七万三〇〇ルクス、二十七万四〇〇ルクス、二十七万五〇〇ルクス、二十七万六〇〇ルクス、二十七万七〇〇ルクス、二十七万八〇〇ルクス、二十七万九〇〇ルクス、二十八万ルクス、二十八万一〇〇ルクス、二十八万二〇〇ルクス、二十八万三〇〇ルクス、二十八万四〇〇ルクス、二十八万五〇〇ルクス、二十八万六〇〇ルクス、二十八万七〇〇ルクス、二十八万八〇〇ルクス、二十八万九〇〇ルクス、二十九万ルクス、二十九万一〇〇ルクス、二十九万二〇〇ルクス、二十九万三〇〇ルクス、二十九万四〇〇ルクス、二十九万五〇〇ルクス、二十九万六〇〇ルクス、二十九万七〇〇ルクス、二十九万八〇〇ルクス、二十九万九〇〇ルクス、三十万ルクス、三十万一〇〇ルクス、三十万二〇〇ルクス、三十万三〇〇ルクス、三十万四〇〇ルクス、三十万五〇〇ルクス、三十万六〇〇ルクス、三十万七〇〇ルクス、三十万八〇〇ルクス、三十万九〇〇ルクス、三十一万ルクス、三十一万一〇〇ルクス、三十一万二〇〇ルクス、三十一万三〇〇ルクス、三十一万四〇〇ルクス、三十一万五〇〇ルクス、三十一万六〇〇ルクス、三十一万七〇〇ルクス、三十一万八〇〇ルクス、三十一万九〇〇ルクス、三十二万ルクス、三十二万一〇〇ルクス、三十二万二〇〇ルクス、三十二万三〇〇ルクス、三十二万四〇〇ルクス、三十二万五〇〇ルクス、三十二万六〇〇ルクス、三十二万七〇〇ルクス、三十二万八〇〇ルクス、三十二万九〇〇ルクス、三十三万ルクス、三十三万一〇〇ルクス、三十三万二〇〇ルクス、三十三万三〇〇ルクス、三十三万四〇〇ルクス、三十三万五〇〇ルクス、三十三万六〇〇ルクス、三十三万七〇〇ルクス、三十三万八〇〇ルクス、三十三万九〇〇ルクス、三十四万ルクス、三十四万一〇〇ルクス、三十四万二〇〇ルクス、三十四万三〇〇ルクス、三十四万四〇〇ルクス、三十四万五〇〇ルクス、三十四万六〇〇ルクス、三十四万七〇〇ルクス、三十四万八〇〇ルクス、三十四万九〇〇ルクス、三十五万ルクス、三十五万一〇〇ルクス、三十五万二〇〇ルクス、三十五万三〇〇ルクス、三十五万四〇〇ルクス、三十五万五〇〇ルクス、三十五万六〇〇ルクス、三十五万七〇〇ルクス、三十五万八〇〇ルクス、三十五万九〇〇ルクス、三十六万ルクス、三十六万一〇〇ルクス、三十六万二〇〇ルクス、三十六万三〇〇ルクス、三十六万四〇〇ルクス、三十六万五〇〇ルクス、三十六万六〇〇ルクス、三十六万七〇〇ルクス、三十六万八〇〇ルクス、三十六万九〇〇ルクス、三十七万ルクス、三十七万一〇〇ルクス、三十七万二〇〇ルクス、三十七万三〇〇ルクス、三十七万四〇〇ルクス、三十七万五〇〇ルクス、三十七万六〇〇ルクス、三十七万七〇〇ルクス、三十七万八〇〇ルクス、三十七万九〇〇ルクス、三十八万ルクス、三十八万一〇〇ルクス、三十八万二〇〇ルクス、三十八万三〇〇ルクス、三十八万四〇〇ルクス、三十八万五〇〇ルクス、三十八万六〇〇ルクス、三十八万七〇〇ルクス、三十八万八〇〇ルクス、三十八万九〇〇ルクス、三十九万ルクス、三十九万一〇〇ルクス、三十九万二〇〇ルクス、三十九万三〇〇ルクス、三十九万四〇〇ルクス、三十九万五〇〇ルクス、三十九万六〇〇ルクス、三十九万七〇〇ルクス、三十九万八〇〇ルクス、三十九万九〇〇ルクス、四十万ルクス、四十万一〇〇ルクス、四十万二〇〇ルクス、四十万三〇〇ルクス、四十万四〇〇ルクス、四十万五〇〇ルクス、四十万六〇〇ルクス、四十万七〇〇ルクス、四十万八〇〇ルクス、四十万九〇〇ルクス、四十一万ルクス、四十一万一〇〇ルクス、四十一万二〇〇ルクス、四十一万三〇〇ルクス、四十一万四〇〇ルクス、四十一万五〇〇ルクス、四十一万六〇〇ルクス、四十一万七〇〇ルクス、四十一万八〇〇ルクス、四十一万九〇〇ルクス、四十二万ルクス、四十二万一〇〇ルクス、四十二万二〇〇ルクス、四十二万三〇〇ルクス、四十二万四〇〇ルクス、四十二万五〇〇ルクス、四十二万六〇〇ルクス、四十二万七〇〇ルクス、四十二万八〇〇ルクス、四十二万九〇〇ルクス、四十三万ルクス、四十三万一〇〇ルクス、四十三万二〇〇ルクス、四十三万三〇〇ルクス、四十三万四〇〇ルクス、四十三万五〇〇ルクス、四十三万六〇〇ルクス、四十三万七〇〇ルクス、四十三万八〇〇ルクス、四十三万九〇〇ルクス、四十四万ルクス、四十四万一〇〇ルクス、四十四万二〇〇ルクス、四十四万三〇〇ルクス、四十四万四〇〇ルクス、四十四万五〇〇ルクス、四十四万六〇〇ルクス、四十四万七〇〇ルクス、四十四万八〇〇ルクス、四十四万九〇〇ルクス、四十五万ルクス、四十五万一〇〇ルクス、四十五万二〇〇ルクス、四十五万三〇〇ルクス、四十五万四〇〇ルクス、四十五万五〇〇ルクス、四十五万六〇〇ルクス、四十五万七〇〇ルクス、四十五万八〇〇ルクス、四十五万九〇〇ルクス、四十六万ルクス、四十六万一〇〇ルクス、四十六万二〇〇ルクス、四十六万三〇〇ルクス、四十六万四〇〇ルクス、四十六万五〇〇ルクス、四十六万六〇〇ルクス、四十六万七〇〇ルクス、四十六万八〇〇ルクス、四十六万九〇〇ルクス、四十七万ルクス、四十七万一〇〇ルクス、四十七万二〇〇ルクス、四十七万三〇〇ルクス、四十七万四〇〇ルクス、四十七万五〇〇ルクス、四十七万六〇〇ルクス、四十七万七〇〇ルクス、四十七万八〇〇ルクス、四十七万九〇〇ルクス、四十八万ルクス、四十八万一〇〇ルクス、四十八万二〇〇ルクス、四十八万三〇〇ルクス、四十八万四〇〇ルクス、四十八万五〇〇ルクス、四十八万六〇〇ルクス、四十八万七〇〇ルクス、四十八万八〇〇ルクス、四十八万九〇〇ルクス、四十九万ルクス、四十九万一〇〇ルクス、四十九万二〇〇ルクス、四十九万三〇〇ルクス、四十九万四〇〇ルクス、四十九万五〇〇ルクス、四十九万六〇〇ルクス、四十九万七〇〇ルクス、四十九万八〇〇ルクス、四十九万九〇〇ルクス、五十万ルクス、五十万一〇〇ルクス、五十万二〇〇ルクス、五十万三〇〇ルクス、五十万四〇〇ルクス、五十万五〇〇ルクス、五十万六〇〇ルクス、五十万七〇〇ルクス、五十万八〇〇ルクス、五十万九〇〇ルクス、五十一万ルクス、五十一万一〇〇ルクス、五十一万二〇〇ルクス、五十一万三〇〇ルクス、五十一万四〇〇ルクス、五十一万五〇〇ルクス、五十一万六〇〇ルクス、五十一万七〇〇ルクス、五十一万八〇〇ルクス、五十一万九〇〇ルクス、五十二万ルクス、五十二万一〇〇ルクス、五十二万二〇〇ルクス、五十二万三〇〇ルクス、五十二万四〇〇ルクス、五十二万五〇〇ルクス、五十二万六〇〇ルクス、五十二万七〇〇ルクス、五十二万八〇〇ルクス、五十二万九〇〇ルクス、五十三万ルクス、五十三万一〇〇ルクス、五十三万二〇〇ルクス、五十三万三〇〇ルクス、五十三万四〇〇ルクス、五十三万五〇〇ルクス、五十三万六〇〇ルクス、五十三万七〇〇ルクス、五十三万八〇〇ルクス、五十三万九〇〇ルクス、五十四万ルクス、五十四万一〇〇ルクス、五十四万二〇〇ルクス、五十四万三〇〇ルクス、五十四万四〇〇ルクス、五十四万五〇〇ルクス、五十四万六〇〇ルクス、五十四万七〇〇ルクス、五十四万八〇〇ルクス、五十四万九〇〇ルクス、五十五万ルクス、五十五万一〇〇ルクス、五十五万二〇〇ルクス、五十五万三〇〇ルクス、五十五万四〇〇ルクス、五十五万五〇〇ルクス、五十五万六〇〇ルクス、五十五万七〇〇ルクス、五十五万八〇〇ルクス、五十五万九〇〇ルクス、五十六万ルクス、五十六万一〇〇ルクス、五十六万二〇〇ルクス、五十六万三〇〇ルクス、五十六万四〇〇ルクス、五十六万五〇〇ルクス、五十六万六〇〇ルクス、五十六万七〇〇ルクス、五十六万八〇〇ルクス、五十六万九〇〇ルクス、五十七万ルクス、五十七万一〇〇ルクス、五十七万二〇〇ルクス、五十七万三〇〇ルクス、五十七万四〇〇ルクス、五十七万五〇〇ルクス、五十七万六〇〇ルクス、五十七万七〇〇ルクス、五十七万八〇〇ルクス、五十七万九〇〇ルクス、五十八万ルクス、五十八万一〇〇ルクス、五十八万二〇〇ルクス、五十八万三〇〇ルクス、五十八万四〇〇ルクス、五十八万五〇〇ルクス、五十八万六〇〇ルクス、五十八万七〇〇ルクス、五十八万八〇〇ルクス、五十八万九〇〇ルクス、五十九万ルクス、五十九万一〇〇ルクス、五十九万二〇〇ルクス、五十九万三〇〇ルクス、五十九万四〇〇ルクス、五十九万五〇〇ルクス、五十九万六〇〇ルクス、五十九万七〇〇ルクス、五十九万八〇〇ルクス、五十九万九〇〇ルクス、六十万ルクス、六十万一〇〇ルクス、六十万二〇〇ルクス、六十万三〇〇ルクス、六十万四〇〇ルクス、六十万五〇〇ルクス、六十万六〇〇ルクス、六十万七〇〇ルクス、六十万八〇〇ルクス、六十万九〇〇ルクス、六十一万ルクス、六十一万一〇〇ルクス、六十一万二〇〇ルクス、六十一万三〇〇ルクス、六十一万四〇〇ルクス、六十一万五〇〇ルクス、六十一万六〇〇ルクス、六十一万七〇〇ルクス、六十一万八〇〇ルクス、六十一万九〇〇ルクス、六十二万ルクス、六十二万一〇〇ルクス、六十二万二〇〇ルクス、六十二万三〇〇ルクス、六十二万四〇〇ルクス、六十二万五〇〇ルクス、六十二万六〇〇ルクス、六十二万七〇〇ルクス、六十二万八〇〇ルクス、六十二万九〇〇ルクス、六十三万ルクス、六十三万一〇〇ルクス、六十三万二〇〇ルクス、六十三万三〇〇ルクス、六十三万四〇〇ルクス、六十三万五〇〇ルクス、六十三万六〇〇ルクス、六十三万七〇〇ルクス、六十三万八〇〇ルクス、六十三万九〇〇ルクス、六十四万ルクス、六十四万一〇〇ルクス、六十四万二〇〇ルクス、六十四万三〇〇ルクス、六十四万四〇〇ルクス、六十四万五〇〇ルクス、六十四万六〇〇ルクス、六十四万七〇〇ルクス、六十四万八〇〇ルクス、六十四万九〇〇ルクス、六十五万ルクス、六十五万一〇〇ルクス、六十五万二〇〇ルクス、六十五万三〇〇ルクス、六十五万四〇〇ルクス、六十五万五〇〇ルクス、六十五万六〇〇ルクス、六十五万七〇〇ルクス、六十五万八〇〇ルクス、六十五万九〇〇ルクス、六十六万ルクス、六十六万一〇〇ルクス、六十六万二〇〇ルクス、六十六万三〇〇ルクス、六十六万四〇〇ルクス、六十六万五〇〇ルクス、六十六万六〇〇ルクス、六十六万七〇〇ルクス、六十六万八〇〇ルクス、六十六万九〇〇ルクス、六十七万ルクス、六十七万一〇〇ルクス、六十七万二〇〇ルクス、六十七万三〇〇ルクス、六十七万四〇〇ルクス、六十七万五〇〇ルクス、六十七万六〇〇ルクス、六十七万七〇〇ルクス、六十七万八〇〇ルクス、六十七万九〇〇ルクス、六十八万ルクス、六十八万一〇〇ルクス、六十八万二〇〇ルクス、六十八万三〇〇ルクス、六十八万四〇〇ルクス、六十八万五〇〇ルクス、六十八万六〇〇ルクス、六十八万七〇〇ルクス、六十八万八〇〇ルクス、六十八万九〇〇ルクス、六十九万ルクス、六十九万一〇〇ルクス、六十九万二〇〇ルクス、六十九万三〇〇ルクス、六十九万四〇〇ルクス、六十九万五〇〇ルクス、六十九万六〇〇ルクス、六十九万七〇〇ルクス、六十九万八〇〇ルクス、六十九万九〇〇ルクス、七十万ルクス、七十万一〇〇ルクス、七十万二〇〇ルクス、七十万三〇〇ルクス、七十万四〇〇ルクス、七十万五〇〇ルクス、七十万六〇〇ルクス、七十万七〇〇ルクス、七十万八〇〇ルクス、七十万九〇〇ルクス、七十一万ルクス、七十一万一〇〇ルクス、七十一万二〇〇ルクス、七十一万三〇〇ルクス、七十一万四〇〇ルクス、七十一万五〇〇ルクス、七十一万六〇〇ルクス、七十一万七〇〇ルクス、七十一万八〇〇ルクス、七十一万九〇〇ルクス、七十二万ルクス、七十二万一〇〇ルクス、七十二万二〇〇ルクス、七十二万三〇〇ルクス、七十二万四〇〇ルクス、七十二万五〇〇ルクス、七十二万六〇〇ルクス、七十二万七〇〇ルクス、七十二万八〇〇ルクス、七十二万九〇〇ルクス、七十三万ルクス、七十三万一〇〇ルクス、七十三万二〇〇ルクス、七十三万三〇〇ルクス、七十三万四〇〇ルクス、七十三万五〇〇ルクス、七十三万六〇〇ルクス、七十三万七〇〇ルクス、七十三万八〇〇ルクス、七十三万九〇〇ルクス、七十四万ルクス、七十四万一〇〇ルクス、七十四万二〇〇ルクス、七十四万三〇〇ルクス、七十四万四〇〇ルクス、七十四万五〇〇ルクス、七十四万六〇〇ルクス、七十四万七〇〇ルクス、七十四万八〇〇ルクス、七十四万九〇〇ルクス、七十五万ルクス、七十五万一〇〇ルクス、七十五万二〇〇ルクス、七十五万三〇〇ルクス、七十五万四〇〇ルクス、七十五万五〇〇ルクス、七十五万六〇〇ルクス、七十五万七〇〇ルクス、七十五万八〇〇ルクス、七十五万九〇〇ルクス、七十六万ルクス、七十六万一〇〇ルクス、七十六万二〇〇ルクス、七十六万三〇〇ルクス、七十六万四〇〇ルクス、七十六万五〇〇ルクス、七十六万六〇〇ルクス、七十六万七〇〇ルクス、七十六万八〇〇ルクス、七十六万九〇〇ルクス、七十七万ルクス、七十七万一〇〇ルクス、七十七万二〇〇ルクス、七十七万三〇〇ルクス、七十七万四〇〇ルクス、七十七万五〇〇ルクス、七十七万六〇〇ルクス、七十七万七〇〇ルクス、七十七万八〇〇ルクス、七十七万九〇〇ルクス、七十八万ルクス、七十八万一〇〇ルクス、七十八万二〇〇ルクス、七十八万三〇〇ルクス、七十八万四〇〇ルクス、七十八万五〇〇ルクス、七十八万六〇〇ルクス、七十八万七〇〇ルクス、七十八万八〇〇ルクス、七十八万九〇〇ルクス、七十九万ルクス、七十九万一〇〇ルクス、七十九万二〇〇ルクス、七十九万三〇〇ルクス、七十九万四〇〇ルクス、七十九万五〇〇ルクス、七十九万六〇〇ルクス、七十九万七〇〇ルクス、七十九万八〇〇ルクス、七十九万九〇〇ルクス、八十万ルクス、八十万一〇〇ルクス、八十万二〇〇ルクス、八十万三〇〇ルクス、八十万四〇〇ルクス、八十万五〇〇ルクス、八十万六〇〇ルクス、八十万七〇〇ルクス、八十万八〇〇ルクス、八十万九〇〇ルクス、八十一万ルクス、八十一万一〇〇ルクス、八十一万二〇〇ルクス、八十一万三〇〇ルクス、八十一万四〇〇ルクス、八十一万五〇〇ルクス、八十一万六〇〇ルクス、八十一万七〇〇ルクス、八十一万八〇〇ルクス、八十一万九〇〇ルクス、八十二万ルクス、八十二万一〇〇ルクス、八十二万二〇〇ルクス、八十二万三〇〇ルクス、八十二万四〇〇ルクス、八十二万五〇〇ルクス、八十二万六〇〇ルクス、八十二万七〇〇ルクス、八十二万八〇〇ルクス、八十二万九〇〇ルクス、八十三万ルクス、八十三万一〇〇ルクス、八十三万二〇〇ルクス、八十三万三〇〇ルクス、八十三万四〇〇ルクス、八十三万五〇〇ルクス、八十三万六〇〇ルクス、八十三万七〇〇ルクス、八十三万八〇〇ルクス、八十三万九〇〇ルクス、八十四万ルクス、八十四万一〇〇ルクス、八十四万二〇〇ルクス、八十四万三〇〇ルクス、八十四万四〇〇ルクス、八十四万五〇〇ルクス、八十四万六〇〇ルクス、八十四万七〇〇ルクス、八十四万八〇〇ルクス、八十四万九〇〇ルクス、八十五万ルクス、八十五万一〇〇ルクス、八十五万二〇〇ルクス、八十五万三〇〇ルクス、八十五万四〇〇ルクス、八十五万五〇〇ルクス、八十五万六〇〇ルクス、八十五万七〇〇ルクス、八十五万八〇〇ルクス、八十五万九〇〇ルクス、八十六万ルクス、八十六万一〇〇ルクス、八十六万二〇〇ルクス、八十六万三〇〇ルクス、八十六万四〇〇ルクス、八十六万五〇〇ルクス、八十六万六〇〇ルクス、八十六万七〇〇ルクス、八十六万八〇〇ルクス、八十六万九〇〇ルクス、八十七万ルクス、八十七万一〇〇ルクス、八十七万二〇〇ルクス、八十七万三〇〇ルクス、八十七万四〇〇ルクス、八十七万五〇〇ルクス、八十七万六〇〇ルクス、八十七万七〇〇ルクス、八十七万八〇〇ルクス、八十七万九〇〇ルクス、八十八万ルクス、八十八万一〇〇ルクス、八十八万二〇〇ルクス、八十八万三〇〇ルクス、八十八万四〇〇ルクス、八十八万五〇〇ルクス、八十八万六〇〇ルクス、八十八万七〇〇ルクス、八十八万八〇〇ルクス、八十八万九〇〇ルクス、八十九万ルクス、八十九万一〇〇ルクス、八十九万二〇〇ルクス、八十九万三〇〇ルクス、八十九万四〇〇ルクス、八十九万五〇〇ルクス、八十九万六〇〇ルクス、八十九万七〇〇ルクス、八十九万八〇〇ルクス、八十九万九〇〇ルクス、九十万ルクス、九十万一〇〇ルクス、九十万二〇〇ルクス、九十万三〇〇ルクス、九十万四〇〇ルクス、九十万五〇〇ルクス、九十万六〇〇ルクス、九十万七〇〇ルクス、九十万八〇〇ルクス、九十万九〇〇ルクス、九十一万ルクス、九十一万一〇〇ルクス、九十一万二〇〇ルクス、九十一万三〇〇ルクス、九十一万四〇〇ルクス、九十一万五〇〇ルクス、九十一万六〇〇ルクス、九十一万七〇〇ルクス、九十一万八〇〇ルクス、九十一万九〇〇ルクス、九十二万ルクス、九十二万一〇〇ルクス、九十二万二〇〇ルクス、九十二万三〇〇ルクス、九十二万四〇〇ルクス、九十二万五〇〇ルクス、九十二万六〇〇ルクス、九十二万七〇〇ルクス、九十二万八〇〇ルクス、九十二万九〇〇ルクス、九十三万ルクス、九十三万一〇〇ルクス、九十三万二〇〇ルクス、九十三万三〇〇ルクス、九十三万四〇〇ルクス、九十三万五〇〇ルクス、九十三万六〇〇ルクス、九十三万七〇〇ルクス、九十三万八〇〇ルクス、九十三万九〇〇ルクス、九十四万ルクス、九十四万一〇〇ルクス、九十四万二〇〇ルクス、九十四万三〇〇ルクス、九十四万四〇〇ルクス、九十四万五〇〇ルクス、九十四万六〇〇ルクス、九十四万七〇〇ルクス、九十四万八〇〇ルクス、九十四万九〇〇ルクス、九十五万ルクス、九十五万一〇〇ルクス、九十五万二〇〇ルクス、九十五万三〇〇ルクス、九十五万四〇〇ルクス、九十五万五〇〇ルクス、九十五万六〇〇ルクス、九十五万七〇〇ルクス、九十五万八〇〇ルクス、九十五万九〇〇ルクス、九十六万ルクス、九十六万一〇〇ルクス、九十六万二〇〇ルクス、九十六万三〇〇ルクス、九十六万四〇〇ルクス、九十六万五〇〇ルクス、九十六万六〇〇ルクス、九十六万七〇〇ルクス、九十六万八〇〇ルクス、九十六万九〇〇ルクス、九十七万ルクス、九十七万一〇〇ルクス、九十七万二〇〇ルクス、九十七万三〇〇ルクス、九十七万四〇〇ルクス、九十七万五〇〇ルクス、九十七万六〇〇ルクス、九十七万七〇〇ルクス、九十七万八〇〇ルクス、九十七万九〇〇ルクス、九十八万ルクス、九十八万一〇〇ルクス、九十八万二〇〇ルクス、九十八万三〇〇ルクス、九十八万四〇〇ルクス、九十八万五〇〇ルクス、九十八万六〇〇ルクス、九十八万七〇〇ルクス、九十八万八〇〇ルクス、九十八万九〇〇ルクス、九十九万ルクス、九十九万一〇〇ルクス、九十九万二〇〇ルクス、九十九万三〇〇ルクス、九十九万四〇〇ルクス、九十九万五〇〇ルクス、九十九万六〇〇ルクス、九十九万七〇〇ルクス、九十九万八〇〇ルクス、九十九万九〇〇ルクス、百万ルクス

×

故に昔々から、勉强に明暗に、そして氣持良く感ずるには、即ち眼の細胞が充分活動し得る適當な明るさが必要なのである。

×

この適當な明るさ、といふのは幾どの程度の明るさであるか？東京電燈株式會社で調査した結果は、讀書するのに一番樂で疲れ易い照度は、一八〇ルクス、一八〇ルクス、二〇〇ルクス、二一〇ルクス、二一八ルクス、二四〇ルクス、二五〇ルクス、二七〇ルクス、二八〇ルクス、三〇〇ルクス、三一八ルクス、三五〇ルクス、三六〇ルクス、三七〇ルクス、三八〇ルクス、四〇〇ルクス、四二〇ルクス、四五〇ルクス、四八〇ルクス、五〇〇ルクス、五四〇ルクス、五七〇ルクス、六〇〇ルクス、六三〇ルクス、六六〇ルクス、七〇〇ルクス、七五〇ルクス、八〇〇ルクス、八五〇ルクス、九〇〇ルクス、九五〇ルクス、一千ルクス、一千一〇〇ルクス、一千二〇〇ルクス、一千三〇〇ルクス、一千四〇〇ルクス、一千五〇〇ルクス、一千六〇〇ルクス、一千七〇〇ルクス、一千八〇〇ルクス、一千九〇〇ルクス、二千ルクス、二千一〇〇ルクス、二千二〇〇ルクス、二千三〇〇ルクス、二千四〇〇ルクス、二千五〇〇ルクス、二千六〇〇ルクス、二千七〇〇ルクス、二千八〇〇ルクス、二千九〇〇ルクス、三千ルクス、三千一〇〇ルクス、三千二〇〇ルクス、三千三〇〇ルクス、三千四〇〇ルクス、三千五〇〇ルクス、三千六〇〇ルクス、三千七〇〇ルクス、三千八〇〇ルクス、三千九〇〇ルクス、四千ルクス、四千一〇〇ルクス、四千二〇〇ルクス、四千三〇〇ルクス、四千四〇〇ルクス、四千五〇〇ルクス、四千六〇〇ルクス、四千七〇〇ルクス、四千八〇〇ルクス、四千九〇〇ルクス、五千ルクス、五千一〇〇ルクス、五千二〇〇ルクス、五千三〇〇ルクス、五千四〇〇ルクス、五千五〇〇ルクス、五千六〇〇ルクス、五千七〇〇ルクス、五千八〇〇ルクス、五千九〇〇ルクス、六千ルクス、六千一〇〇ルクス、六千二〇〇ルクス、六千三〇〇ルクス、六千四〇〇ルクス、六千五〇〇ルクス、六千六〇〇ルクス、六千七〇〇ルクス、六千八〇〇ルクス、六千九〇〇ルクス、七千ルクス

街に散る花

(145)

竹田敏彦作

寺本忠雄畫

狂戀の母 (二)

愛慾の果——その反動はやがて悲劇しかった。二たび佑村青年によって醜く切られた妻の愛の生活は、まさに初夏の候に開いた。

けれども、幸男、美惠——彼女には最愛の二人の子供もあるし、まだ今日まで長い過ぎ去りし放蕩の酔もある。世としての手前、女としての世間への恥地、彼女は情夫の死後するままに我を忘れて狂乱自殺を計されなかった。まして以上、自我の強い女すら里としての彼女はさうした醜名の恥ひを、愛に醜れ狂んでは、断じて、夜の街に、暴飲ない法律を重ねて歩めなかった。

「あゝ、せめて逃げたい」

銅貨して一年月、今日も、二人は十歳日の午後を、それも、人目を避けて品川駅で寂合ひ、同じ電車の片隅に、引き、くに乗りこんだ。やっと列車が横浜を過ぎると、せきかねやうに美容里は席を立って、荷棚の鞄に手をかけながら、誰ともなく、さう言った。

「あゝ、ほんとうに、どうしてよいか分かりません。貴女は生涯の方が御存知の通りです。どうして、私が、かうなったのか、それは、貴女も、よく、ご存知の筈です。私は、貴女の為めに、どんなに、犠牲になったか、貴女は、それを、よく、ご存知の筈です。」

「それに引換へて、貴女は、どうでしょう。貴女は、私を、どんなに、苦しめたか、貴女は、それを、よく、ご存知の筈です。」

「それは、貴女の為めなんですよ。貴女の為めに、私は、どんなに、苦しんだか、貴女は、それを、よく、ご存知の筈です。」

「それに、

身の上相談

但諸相手もなく郵便にて御申込み下さい、匿名や御身は御断りします。

中等學校に入れない

私は十四の年から今年で五年間中等学校の入學試驗を受けましたが合格しません、けれども學力には充分自信がありますので是非中學校に入り將來世界に出たい決心です。けれども公學校での下級生連中中學校を卒業するやうになるので父は「オイ女學校か、それより早く職に就け」と申しますがいい勤めもなく一向どうしても自分に入りたい志を止めることが出來ません、けれども來年また受かるかどうか心配しい困ってをります、中學に行かずに官吏に出る道はありませんか（O生）

私は十七になりますが體が細くて中學校の入試に應じて見ても恐らく不合格となります、小學校の教師も思い方ではありませんでしたが親が内地の中學へはやってくれません來年もう一度受けてみようとは思ひますがどんなものでせうか又東京へ出て獨學で成功出來ませうか（N生）

もう公立學校は諦めよ

もう中學校の受驗は諦めるやうにおすすめします。臺灣の公立學校では十二、三人もなりつた者を除外試驗の條件がない限り採らないでせう。内地の私立學校なら入學出來ますが親御さんが賛成しないやうですから私からも何とも言へません。深い反省を望みます。ありていに申せばやや疑惑な點さへ多分に認められます。男性を思慕する事を責められはしません然しそれは異女が特に好感の感を帶びてゐる場合に限ります。無論常識的な感覚にまで展開されてしまったのでは論を俟むまでもなくむしろ天意です。貴女は其に對する父母が自らを心配のあまり神經質から出た事かと推察しますが、貴女の父母が入學を許さないのは學校が遠くて通學するに不便だからでせう。結婚は最もよい時機に最も適當な相手を選んで結婚するのが一番理想的ですから父母の意に用ひないでならお

婚期について惱む

今年二十四になる女性でございますが、世には第二人の愛人（近頃を持ち、貴に御結婚）校に入學を心がけに而も強く思ってゐるのですが開けかねてゐる間に此方に縁談が降ってまりました。私は朝夕K温泉するわけでしたが、K温泉へ子に慰められつつ過してゐりました。ところがK氏に元へ嫁するさうです。系が絶しくするかなければ遠を許して呉れないでせう。黒四一以下の碁打ちは四十の不覚を恐めて遠慮がない、此の手割を除外して四八と二十四の押しを捉えて四八と十四の押しを見れば一目ちうその「つる十四」を示すのお言葉有力なのである譲は黒を十七とアケる一手を考慮して置き所に悩みが存する

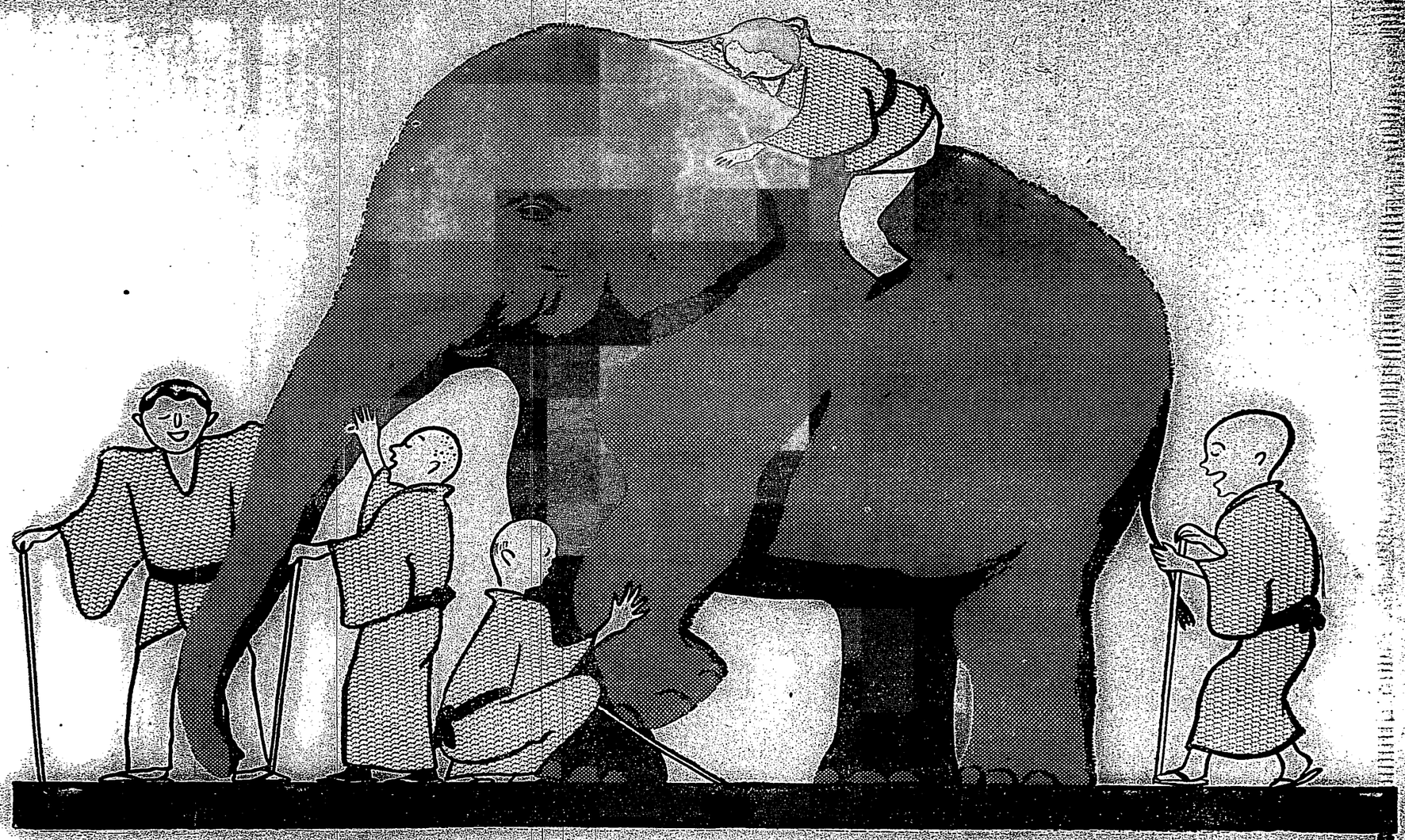
結婚をあせる必要はない

貴女の生活環境にK氏等への關心を寄せひとく感じて来たことを自覚されませんか、深い反省を望みます。ありていに申せばやや疑惑な點さへ多分に認められます。男性を思慕する事を責められはしません然しそれは異女が特に好感の感を帶びてゐる場合に限ります。無論常識的な感覚にまで展開されてしまったのでは論を俟むまでもなくむしろ天意です。貴女は其に對する父母が自らを心配のあまり神經質から出た事かと推察しますが、貴女の父母が入學を許さないのは學校が遠くて通學するに不便だからでせう。結婚は最もよい時機に最も適當な相手を選んで結婚するのが一番理想的ですから父母の意に用ひないでならお

對局者のことば

（黒）二五手目二八で（白）二七と受けて思ひもよらぬ変化が生じ、白が二七と受けて思ひもよらぬ変化が生じ、白が二七と受けて思ひもよらぬ変化が生じ、白が

慢性胃腸病こはアイフ



獨斷は禁物！

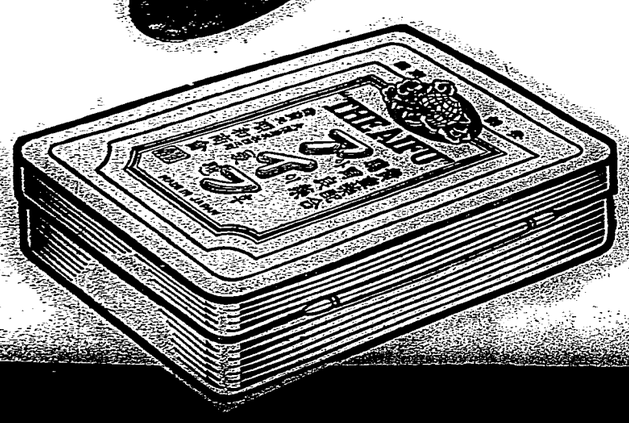
消化不良や胃酸過多は、

慢性胃腸病の一症狀！

胃腸病も慢性になると症狀が複雑て、腕やけ、げつぷ、むかつきがあるかと思へば胃部の停滯、壓迫、膨滿の感じもあり、嘔吐もあれば胃痛、腹痛、下痢、便秘もあると云つた風で、種々の障害が錯綜して來るものです。初めは單に胃のカタル炎症て粘膜上皮が荒らされてゐたものでも、慢性の經過をとり症狀が粘膜下府に進むと、潰瘍と云つて疵や爛れが出來てくるものです。そこへ過敏になつた胃腺からは餘分の胃液が分泌され、糜爛部を刺戟しますから空腹時の疼痛、嘔吐が起つて來る道理であります。かうなると胃の筋肉も衰弱して、古くなつたゴムのやうに彈力が鈍りますから、食べたものが何時までも溜つてゐますし、未消化物は腐敗醗酵して腸粘膜を刺戟し、腹痛、下痢の原因を作ることゝなるのであります。

ですから 一つの症狀だけを捉へて消化不良だ、胃酸過多だと決めて了ふのは早計であるばかりてなく、甚だ危險なことゝ云はねばなりません。慢性胃腸病が住々癒り難いとか、再發しやすいと謂はれるのも、かゝる獨斷で偏頗な治療をされてゐる場合が案外多いものです。もしこれまでの胃腸藥に御不滿があるとしたら、かうした點にも遺憾はなかつたでせうか。醗素劑を服んで見たが胸やけ、胃痛、腹痛、下痢等がはつきりしないとか、制酸劑だけては消化不良や下痢が好轉せぬと言つた場合、何を措いても治療藥アイフを服用さるべきです。アイフこそ複雑なあなたの胃腸障害に合致する唯一の治療藥たることを首肯されるでせう。

勿論アイフには病原、對症、二重の作用があつて主藥が胃腸內壁の瘡面に沈着して炎症を癒し、粘膜を強め、弛緩を引締め、分泌及蠕動異常を整へる等廣汎な病原治療を營み、併て胃痛、腹痛、下痢便秘、嘔吐、消化不良、食慾不振等諸症狀を消退して全機能の健全なる活動を助成します。試みにアイフ愛用家にお訊ね下さい。敏活なる治療力を實するといふに何故もつと早く服まなかつたかを愧ぢると一樣に申されます



限藥
(大型)アイフはに府兩の賜ご円
圓三 分日七十 錢五十七 分日四
圓五 分日一十參特 錢十五圓一 分日八
(賜進)アイフ門使はに門專府門
圓一 入配十六百 錢十五 入配五十七
▶りあに店藥名有の所る到図全◀

發賣本舖 商和順
大阪市東區淸水谷西之町
電話 番五四三一(大)番〇〇五・二〇〇五・〇〇〇五番
振替大阪 番八八二一六
京東 郎本市京東 町砂眞區
電話 番〇一〇四(川石小)番
連大 市連大 丁一 目
電話 番八〇六七 振替 番五六七三連大

國際飛行場設置を
兩州共同で計畫
所要土地面積約三十萬坪で
岡山郡の某地が有力

【岡山電話】帝國航空輸送會社と商業の關係として臺北松山の飛行場に對比すべき商業國際飛行場設置に關しては地元岡山縣當局に於ても兩州共同になお理想的國際飛行場たらしむべき適地の物色に着手し目下調査中であるが、大體岡山縣の一致を見た所要飛行場面積は約三十萬坪にて本年度中には設定を終了し明十一年度には整地を完成せしむべき計畫であると

助川高級副官ら
豪中へ

【臺南電話】臺南飛行第七聯隊の誇る阿里山一月飛翔隊(十一月一日午後四時臺中着の陸軍飛行機)は助川高級副官と同行する筈の助川高級副官上村砲兵少佐、清水大尉、成川大尉、池田軍曹は、清水大尉、成川大尉、池田軍曹は、同村山醫正は十一月一日午前九時五分發の列車で臺中に向ふ

鹽糖壽工場
壓搾を終了

【花蓮港電話】鹽糖花蓮港製糖所(壽)は本年一月五日原料壓搾を開始し十一月一日午前二時を以て全部終了告げた。壓搾高一億九千六百九十五萬一千斤で前年に比し約一割の減收である

花蓮港婦人會員の
ピクニック

【花蓮港電話】花蓮港婦人會員九十餘名は十一月一日午前八時から海岸に大衆ピクニックを行つた

助川高級副官ら
臺中へ

【臺南電話】臺南飛行第七聯隊の誇る阿里山一月飛翔隊(十一月一日午後四時臺中着の陸軍飛行機)は助川高級副官と同行

彭佳嶼測候所落成式

(二)觀測者の臥室(三)測候所前の積雪初代所長

所に於ては既に鉄筋コンクリート造の本館や鉄塔の下敷(倉庫)の建設や鉄塔の下敷(倉庫)の建設を終了するまでとなつたが、記念碑は高さ六米、幅一尺の大理石、記念は砂石を以つくり位置は測候大臣の選定した場所とし鉄筋コンクリート造の堅固なる物にする筈である。因に同工事に從事せる所職員は自一千名餘りは延人員四百人、一日平均三千人で總數延べ百萬人、一日最高三千人で總數延べ百萬人のため盛況に走した。尚ほ彭佳嶼は約二千噸に上つてゐるが、右につき工事長の川上技師は語る

工事は大體な順調に進み終つたところは仕上塗だけとなり洪水さへなければ來年三月の竣工より早く來る八月中には大體設功式を擧げることが出來る見込みです

淡水河の鮎
今年は豐富
稚魚の間に濫獲される
一千萬尾の救濟策は？

◇淡水河の鮎も本月十日から解禁になり、今年の鮎の數は大正十五年以來の記録だといふ、此の頃は河水が少い、水底淺く水は無臭のこと又淡水の大鮎數にも關分際山からつてゐる模様だ

◇魚體は日下のところ四寸位で、新店の奥龍山方面まで遡つたものは五寸を越してゐる、但し何れにするも今年は魚群が非常に多い感がある

◇解禁は十六日の午前零時だが此の晩は狙つて集まる釣客や投網客は十五日の夜半から出動し、その數は水底地附近だけでも優に二千人は突破するだらうとの噂である、さて鮎を釣客たるために禁漁期中の漁業取締を嚴重にしてあり、從つて鮎は産卵期にある親鮎の保護、蕃殖期による

稚魚の繁殖を圖らねばならぬ、殊に稚魚の濫獲によつて繁殖の都合上とれ丈捕をしてゐるかゞ問題となつてゐる、右に關し何れにするも今年は魚群が非常に多い感がある

◇或る人の調査によれば臺北廳より下流河口までの間に現在捕獲されてゐる鮎の稚魚は年齢は實に十萬尾に上つたであらうとのこと、此の鮎を一尾一尾釣るとすれば一尾平均として實に二千萬尾といふ數になる、それ丈け臺北市民は知らず〳〵の間に享樂を與へられてゐる譯だ

◇右の現象に對し業者は直接の目的は稚魚を獲ることに在り、別段鮎の繁殖を計つてゐる譯ではなく、結果は鮎が水底になつてゐるやうなものだ、だが假しそれがために此の鮎の漁獲が減少し或は釣客の減少を來すやうなことがあつたとしても、それがために此の鮎の漁獲取締を緩和するやうなことは決してないとのこと、此の鮎を釣るには一尾一尾を釣る釣法を取締るよりも、何十萬尾と一度に網で漁獲する投網の禁止方法はどんなものだらうかと、實に興味ある問題である

郵便局新設を
庄代表が陳情

【臺南電話】臺南州小梅庄に住む農民かなで郵便物は總て大林郵便局扱ひとなつてゐるので地方民は非常に不便なく最近人口の增加につれて郵便物數も著しく增加し來たので同庄民は庄内に郵便局の新設を熱望する聲が頗であつたが、庄民有志八十餘名は那處同郵便局長と共に八日木村庄長を訪問、郵便局設置に關し懇談を遂げたが、庄長は庄内交通の關係上新設は不可能なる旨を答へ、

躍進臺灣の全貌　其五

資本金も倍增して更に飛躍する
臺灣倉庫會社の勇圖
文化・産業の發展に資する使命や重し

臺灣文化産業の發展といい、大使命を帶びて誕生した臺灣倉庫株式會社（本社臺北市）は大正十年九月資本金二百萬圓（目下全額拂込濟）を以て創立されたが、其後數回に亘る增資を經て、現在の資本金は二千萬圓（拂込四分の三）となり、陣容も亦一新されて、取締役社長に川瀨昇太郎氏、取締役に大塚茂十郎氏、中西勝吉氏、監査役に池田卓一氏、相談役に辰馬吉左衛門氏、支店長に高瀨壽氏、出張所長に松山喜一氏、臺北、鳥居、桃園、苗栗、竹林、苑裡、清水、彰化、田中、二水、臺南、嘉義、水上、新營、潛化、鹿港、楠梓、九曲堂、海口の各支店、出張所を有し、約四千五百噸の倉庫は總て鐵筋コンクリート造、二階建又は三階建で、其の一部は冷藏庫に、又一部は貸ビルに利用されて居り、其の外、臺北市内の要所に自動車を配置して、運送取扱業務の完璧を期して居る。

沿革概要

本島文化の發展に伴ひ南北の連絡運輸の必要益々加はるに及び、陸上設備も亦之に應ずる爲め、大正十年九月、臺灣倉庫株式會社の創立を見るに至つた。當時の發起人は、山本悌二郎氏を社長とし、臺灣銀行から藤原大氏が入つて專務取締役に就任、高瀨壽氏が支配人、高瀨、池田卓一の兩氏が支店長に就任した。

其後、大正十二年十月、臺灣倉庫株式會社と改稱し、翌十一年一月、臺北市内に本店を置き、基隆、臺中、臺南、高雄、新竹、臺東、花蓮港、澎湖島の各地に支店、出張所を設置して、倉庫業務の擴張を圖つて來たが、昭和二年十月、臺灣倉庫株式會社と改稱し、翌昭和三年四月、臺灣倉庫株式會社と改稱し、翌昭和三年四月、臺灣倉庫株式會社と改稱し、翌昭和三年四

戰爭終止確定まで
從來の特權を享有
ボツタイ副總督の口上書に
帝國政府推移を重視

【東京十一日發同盟】イタリーのエチオピア併合宣言に就いて伊外務省には未だ何等公表がないが十日アデス・アベバ駐劄英代理公使よりの報告に依れば民衆間に於ては依然戰爭終止の噂が濃厚となつてゐるが英代理公使は十日ボツタイ氏を訪問、在留公館員の撤退に關し協議を遂げたが英國は從來エチオピアに於ける特權を公に抛棄するか否かと言ふ點で、此の點に就ても英代理公使から確答がなかつた

【ローマ十日發同盟】イタリー政府筋ではエチオピア併合宣言に關する國際聯盟の態度に就いて從來英國は聯盟の主導的地位にあるものとして聯盟の決定は英國の意向に依つて決定されてゐるとの口上書を寄せて來たが、佛外務省は七日英國の態度を明かにしないから聯盟は何等の決定をなし得ないと回答した、伊太利のエチオピア併合の正式通告があつた場合帝國政府としては從來に交渉を行はず各國の態度を注視し日本人の權益擁護の爲適切なる措置を執るべく準備に着手してゐる

衆議院
豫算總會

東京十二日電。十二日衆議院豫算總會。午前九時十五分開會即入質疑。金井正夫氏（昭和）曰。最近大權踩躪問題頻發。司法制度。有改善否。林法相曰。現於司法制度調查會調查中。裁判所。檢事局分離。當其主要項目。問題極重要。必要十分研究。金井氏。又說司法部內。必要人事刷新。問法相所見。法相曰。新陳代謝之必要。固所痛感。務欲廣分人材於地方。人事行政。關係重大。欲開高等司法官會議。諮之。金井氏曰。觀之此回選舉違反。搜索中之事件。頻掲載於新聞。非常遺憾。法相曰。搜索中之事件。掲載於新聞。非常遺憾。金井氏。又陳拘留制改度。正之必要。而後選舉法改正。問法相。內相所見。有種々疑問處。設連坐規定等。觀之實際。似宜改正。此點今後欲改之。十五分開會即入質疑。

憤厦官憲不吉對臺僑
議追討折屋賠償金
懇領事强硬交涉

厦門本社特置員發。厦門臺僑久懸之市政府。折去已歷十年久。尚未清楚。近復紛爭。即民國十四年市政府。實施市區改正工事。若照改正規則。欲折民間家屋。須先交賠償金。當局寺島領事。應市當局懇求。對臺僑家屋。先行折去。約來三月後。交付賠償金。屆時不服行。屢次拖延。曾有組織臺僑權益擁護。登記者三十餘萬元。合母利計有四十萬元。僑權者三十餘名云。

內地博覽
臺灣館好許

殖産局川四屬。出張鮫島博。津山博。甲子園博等據同氏電稱。津山博于去五日開會。其成績如次。津山博入場者。雖不滿二十萬。而臺灣之宣傳。料有大效果。甲子園博因處于大阪神戶兩大都市。觀衆甚夥。各館內容充實。爲今春博覽會中之最優秀者。鮫島博至來十五日閉會。入場者仍好。連日入場者。本均四五萬人。而去三日多至十二萬六千餘。于會

宜蘭線運轉汽動車
新設停留所八處

既報。宜蘭線。運轉汽動車。按自本年十月。自鐵與頭圍間實施。然當局擬增加停留所八處。詳細如左。

▲頭圍。礁溪間。增設頭圍庄二圍及二圍礁溪間附近三處。
▲礁溪。四結間。增加礁溪礁溪道門附近。
▲宜蘭二結間。增設宜蘭川北岸。
▲二結。羅東間。增加二結二百番地。
▲羅東。冬山間。增設打那美。
▲冬山。新城間。增武荖坑北岸。

又因增加停留所。而宜蘭線平行乘合車之影響。即經營宜蘭頭圍間之乘客會社。最有影響。羅東。宜蘭間之乘合車。因汽動車停留所。與部落頗爲遠隔。是故認無影響。共營會社。線而參觀授業。講義。因停留所與

臺南商工團體
運動酒工場

臺南市各商工團體代表者。去十一日午後七時。集于

定期敘勳
今川內海兩氏
各敘勳三等

十一日。有川外相。以下千四百六十名。文武官。九重有定期敘勳之旨。中如外務大臣從二位勳一等有田八郎氏。敘勳一等。授瑞寶章。特命全權大使。正四位勳三等米栖三郎。判事同櫻山喜助氏。各敘勳一等。授瑞寶章。高雄州知事正五位勳四等。內海忠司。臺北州知事同。今川淵。左記事項如左。

一、爲期婦人教化徹底。
有何適切具體案。
二、生活改善問題。
三、家庭之川國語。
當日出席者。學校二遊吉中臺中高女校長。山田準化高女教諭外六名。委員一邊臺中秦氏阿信。田中陳氏澄清。集々石陳氏珠東勢劉氏瑞。國語講習所一邊臺中一名。豐原一名。而日下知事夫人。豐鶴。細井。藤田二夫人及二宮高梧兩主事等云。

婦人教化
臺中知事官邸
開懇談會

臺中州當局。日前任命婦人教化委員。而者番覆婦臺中支部。爲欲聽取前記委員意見。訂來十五日午後一時。在知事官邸。開婦人教化懇談會。將附議

羅東促進
女子中等學校

羅東街協卽地主氏。爲促進羅東街發展。去十日提出四重大問題。求羅東街長。速講設後策。略謂女子中等學校設立促進。淡水溪浮復地爲街庄之財產。擴市場利用方策。確立。沉路鋪裝。結局街當局。然如何解決。一般頗爲注目又關于促進設女子中等學校。據一般觀測。欲開街民大會。喚起輿論。促進此實現云。

局營自動車
被人擲石

局營自動車。新作第二百十一號。去十日午前八時頃。發自新竹。駛至中壢楊梅庄草湖溝坡附近。在縱百道路疾走中。右窓被人投石。破壞玻璃。但乘客無恙。料爲兒童所擲。

新辯護士會則
審議完了
附議于總會

臺北辯護士會。關于辯護士法改正。臺任命新辯護士會則。起草委員。考究中。該草案及細則已成。去九日午後一時。在法院辯護

惡漢藉言國體明徵
頒布皇族高官寫眞
先取代金被害不少

去九日被宜蘭郡丸田刑警探知。騙郎留置于宜蘭郡警察課。嚴詰而爾陽三郡下被害者。似有三十餘人。其是希孕島人士。若有受

臺灣日日新報

內地博覽
臺灣館好許

殖産局川四屬。出張鮫島博。津山博。甲子園博等據同氏電稱。津山博于去五日開會。其成績如次。津山博入場者。雖不滿二十萬。而臺灣之宣傳。料有大效果。甲子園博因處于大阪神戶兩大都市。觀衆甚夥。各館內容充實。爲今春博覽會中之最優秀者。鮫島博至來十五日閉會。入場者仍好。連日入場者。本均四五萬人。而去三日多至十二萬六千餘。于會

宜蘭線運轉汽動車
新設停留所八處

既報。宜蘭線。運轉汽動車。按自本年十月。自鐵與頭圍間實施。然當局擬增加停留所八處。詳細如左。

▲頭圍。礁溪間。增設頭圍庄二圍及二圍礁溪間附近三處。
▲礁溪。四結間。增加礁溪礁溪道門附近。
▲宜蘭二結間。增設宜蘭川北岸。
▲二結。羅東間。增加二結二百番地。
▲羅東。冬山間。增設打那美。
▲冬山。新城間。增武荖坑北岸。

又因增加停留所。而宜蘭線平行乘合車之影響。即經營宜蘭頭圍間之乘客會社。最有影響。羅東。宜蘭間之乘合車。因汽動車停留所。與部落頗爲遠隔。是故認無影響。共營會社。線而參觀授業。講義。因停留所與

臺南商工團體
運動酒工場

臺南市各商工團體代表者。去十一日午後七時。集于

獎勵中間作
及早通水

嘉南大圳烏山頭線之灌溉。三年輪作。水稻區域者。向年均於六月一日通水。本期因圍水稻早植。中間作獎勵。故提早變更於本月十五日開始。而斷水期原定十月十日。以通水提前之故。亦將變更九月末日云。

員林郡國講
講師講習

員林郡下各街庄主催國語講習所講師講習會。自去四月三十日起至五月四日之間開催。各會場講習員皆甚熱誠。每日自午前七時半起。參加學校朝會。線而參觀授業。講義。

柳川軍司令官
視察中部

柳川軍司令官。十一日午後三時半。抵竹山郡役所少憩後。經社寮集々而行晚宿于日月潭涵碧樓。十二日觀察歸化蕃。取水塔電力工事。及遊湖上。午後一時經埔南投道路。同三時抵彰化。觀察御遺跡地。晚宿臺中春田館。十三日朝時檢閱臺中第三大隊。視察飛行場。並大肚及拾晒。先取代金。因寡

新竹州
斗六郡藥種商
將加管束

臺南州斗六郡下之藥種商營業者中。各就本職。不

賽神不絕
宜蘭農村好況

宜蘭郡下。本年爲五穀豐收。農村景氣頗佳。自春初起。各鄉村部落。迎媽祖不絕。去十日山庄擺神輿。樂隊。吾業園。數十陣遊街。夜在擺厘廟庭演唱梨園數齣。是日遠近香客。參詣不絕。極呈鬧熱云。

斗六郡藥種商
將加管束

臺南州斗六郡下之藥種商營業者中。各就本職。不

偽造萬金油已實供
且有詐欺事件潛在

臺南警察署。於日前破獲未遂事件。去九日之偽造萬金油案。其主犯阿水。劉阿珍。林鳳蒲。拘留于羅東郡警察課。由高雄市鹽埕四丁目德生堂藥房主魏晉得。頗善校訂。幾經訊問。俱嘗不承。署方派得能手。乃派律田部長刑事赴高雄。家宅搜查。抄出帳簿書類以歸。示以證據。案方此實。蓋魏非僅偽造該油。且有詐欺事件之潛在。案於昭和九年秒。與今回同被拘逮之福住町一丁目王江龍。許池立本町四丁目陳謀等四名訂立合同。由許池出資二千五百圓。王陳各千二百五十圓。而魏資欲收買前偽造該油。已被署差田刑事執獲之。洎町一丁目施德。所有之殘品。重行製造發賣。而將三者所出資之五千圓。據爲已有。於前記之處開張藥房。後僱按千圓。向施勝得假藥油貼標。空瓶等。對王三名則言爲兩千金。而收買施之殘品時。又只訂立契約等支現欵。比交貨後。施欲向其索欵。無以應。王不則力迫其從速製品發售魏無法遂仍以詐騙手段。往謀北部某氏出資。事竟由某洩漏。卒致破獲云。

無料觀劇未遂
謀刺園主

羅東街黃氏爻。年二十七林輝春。（以下約十字模糊）

前科數犯
自稱教育會員
頒布御眞影

宜蘭街五日中。有稱國民教育會臺灣本部員。向市內到處求售御眞影。對一般顧客。先取前金數十處。

私製鳳梨罐詰數軒
見勢不利暫爲停歇

臺南將軍署。日前破獲之鳳梨罐頭密製案。其後由署各刑事查究中。自販賣者所供。查得臺南市鹽埕町一丁目林鑽。印刷發賣現林已被拘。向其追究賭博。將何以回復。老人亦嘗誓曰。不能復犯。警誡而釋之。

兩妓投海
漂到防砂堤
嚴究原因

臺北市西子灣海水浴場防砂堤近附淺瀨。漂到女屍二具。一人相抱。果以細繩纏腰。蓋門低首爲招魂。可憐眞病竟無醫。一夜果大夢。不温。他日東山修腐事。

狂人有盜癖
竊取衣類被捕

海山郡板橋街社後人沈阿通。年二十六。爲飢寒性精神病者。且有盜癖。監禁在家。去十日午前七時半頃。破壞鐵鎖逃出。走入臺北市內。午後四時半頃。由臺北西門市場。竊取衣類二十餘點。在新起町方面通行中。被發見捕住云。

詩壇

輓吳小魯先生德配蔡

林夢梅

三春風雨冷怡園。玉碎香消夢不温。他日東山修腐事。可憐眞病竟無醫。一夜果大聲欲絕。只道黃金雖鑄命。梅村哀賦悼亡詩。

從今中饋主無人。三月東墩細雨催。昧絮才高嫣女孝。良緣未缺有餘哀。

私製鳳梨罐詰數軒
見勢不利暫爲停歇

臺南將軍署。日前破獲之鳳梨罐頭密製案。其後由署各刑事查究中。自販賣者所供。查得臺南市鹽埕町一丁目林鑽。印刷發賣現林已被拘。向其追究賭博。將何以回復。老人亦嘗誓曰。不能復犯。警誡而釋之。

前科數犯
自稱教育會員
頒布御眞影

宜蘭街五日中。有稱國民教育會臺灣本部員。向市內到處求售御眞影。對一般顧客。先取前金數十處。

狂人有盜癖
竊取衣類被捕

海山郡板橋街社後人沈阿通。年二十六。爲飢寒性精神病者。且有盜癖。監禁在家。去十日午前七時半頃。破壞鐵鎖逃出。走入臺北市內。午後四時半頃。由臺北西門市場。竊取衣類二十餘點。在新起町方面通行中。被發見捕住云。

兩妓投海
漂到防砂堤
嚴究原因

臺北市西子灣海水浴場防砂堤近附淺瀨。漂到女屍二具。一人相抱。果以細繩纏腰。蓋門低首爲招魂。可憐眞病竟無醫。一夜果大夢。不温。他日東山修腐事。

賽神不絕
宜蘭農村好況

宜蘭郡下。本年爲五穀豐收。農村景氣頗佳。自春初起。各鄉村部落。迎媽祖不絕。去十日山庄擺神輿。樂隊。吾業園。數十陣遊街。夜在擺厘廟庭演唱梨園數齣。是日遠近香客。參詣不絕。極呈鬧熱云。

斗六郡藥種商
將加管束

臺南州斗六郡下之藥種商營業者中。各就本職。不

偽造萬金油已實供
且有詐欺事件潛在

臺南警察署。於日前破獲未遂事件。去九日之偽造萬金油案。其主犯阿水。劉阿珍。林鳳蒲。拘留于羅東郡警察課。由高雄市鹽埕町四丁目德生堂藥房主魏晉得。頗善校訂。幾經訊問。俱嘗不承。署方派得能手。乃派律田部長刑事赴高雄。家宅搜查。抄出帳簿書類以歸。示以證據。案方此實。蓋魏非僅偽造該油。且有詐欺事件之潛在。案於昭和九年秒。與今回同被拘逮之福住町一丁目王江龍。許池立本町四丁目陳謀等四名訂立合同。由許池出資二千五百圓。王陳各千二百五十圓。而魏資欲收買前偽造該油。已被署差田刑事執獲之。洎町一丁目施德。所有之殘品。重行製造發賣。而將三者所出資之五千圓。據爲已有。於前記之處開張藥房。後僱按千圓。向施勝得假藥油貼標。空瓶等。對王三名則言爲兩千金。而收買施之殘品時。又只訂立契約等支現欵。比交貨後。施欲向其索欵。無以應。王不則力迫其從速製品發售魏無法遂仍以詐騙手段。往謀北部某氏出資。事竟由某洩漏。卒致破獲云。

無料觀劇未遂
謀刺園主

羅東街黃氏爻。年二十七林輝春。（以下約十字模糊）